

研究資料 (Research record)

昭和初期の国有天然林調査報告書の発見

新山 馨^{1)*}、柴田 銃江¹⁾、黒川 紘子¹⁾、松井 哲哉²⁾、大橋 春香³⁾、佐藤 保¹⁾

要旨

昭和初期に調査された貴重な森林生態調査報告書の原本を発見した。今回発見された 662 件の報告書は、大正 15 年に農林省山林局が発行した「国有天然林調査方法」に基づき、六営林局(青森、秋田、東京、大阪、高知、熊本)の植生調査係が森林生態調査を行った結果をまとめたものである。報告書は森林植生と毎木調査の貴重な原データや原図を多数含んでいる。本稿の目的は第一に、報告書が残されてきた歴史的経緯を記録すること。第二に、報告書の目録を公表することで多くの研究者に報告書原本の存在を知らせること。第三に、報告書を将来の森林研究や施業技術に活かすため、報告書に含まれるデータのデジタル化を進める契機とすることである。

キーワード：森林植生、天然林、昭和初期、生態学的データ、植生図

1. はじめに

森林総合研究所の森林植生研究領域が管理する植物標本準備室に、大きめの段ボール箱 23 個分の古い資料類が引き継がれてきた。重要な研究資料として保管されてきたと推測されるが、研究者の異動や退職に伴い、資料が残ってきた経緯や中身を知る職員が居なくなってしまった。これら古い資料の内容を著者らが確認したところ、大部分は昭和初期に当時の営林局で行われた国有天然林調査報告書の原本であることがわかった。これらの原本には昭和初期の天然林の姿を詳細に示す森林植生分布図や林況調査表といった調査データが含まれており、長期的な視点での天然更新研究や森林管理に役立つ第一級の資料であると著者らは直感した。

大正末から昭和初期にかけての国有林では、皆伐を中心とした法正林思想に基づく施業ではなく、択伐と天然更新を主体に森林の保続を図る恒続林思想に基づく施業が主流をなし(渡邊 2002, 2003)、その基礎調査となる森林生態調査が青森から熊本までの各営林局で行われていた(草下 1954)。大正 15 年 12 月に農林省山林局が「国有天然林調査方法」を発行し(農林省山林局 1926)、これに準拠し森林調査を行うよう山林局傘下の各営林局に指示を出したと推察される。これを受けて青森営林局、秋田営林局、東京営林局、大阪営林局、高知営林局、熊本営林局の六つの営林局が国有天然林の調査に乗り出した。東京営林局発行の雑誌「林友」(高橋・横幕 1927, 1928b,

a) や青森営林局管内要覧(青森営林局 1936, 1937)にある天然林調査の記載は、国有天然林調査が実行された事実を裏づけるものである。なお調査報告書は二部作成し、一部を各営林局が保管し、もう一部は山林局(現林野庁)に提出との指示であった(農林省山林局 1926)。こうして植生調査や毎木調査を含む膨大な天然林調査報告書が昭和 3, 4 年から 14 年にかけて山林局に提出されたと推察される。これらの報告書は、太平洋戦争前に部分的に取りまとめられ公開された(栗田 1933, 高橋 1935, 青森営林局 1935a, b, 藤島 1932)。しかし早尾(1963)によれば、大部分の報告書は国有林の施業や林業研究に積極的に活用されることなく、戦後、林野庁業務課から林業試験場(現森林総合研究所)に引き渡されたという。しかし整理もされず、継承されてきた経緯や資料の実態が不明なまま現在に至った。そこで活用に向けた第一歩として、報告書原本を整理し、概要がわかる全体の目録と一部原本の写真を公開することにした。

本稿の目的は、第一に、このような貴重な天然林調査報告書が残されてきた歴史的経緯を記録することである。第二に昭和初期の国有天然林調査報告書の目録と一部の実物写真を公表することで、調査報告書に興味を持つ多くの研究者に報告書原本の存在と概要を知ってもらうことである。第三に貴重な報告書原本を今後も良好な状態で保存する一方で、将来の森林生態学的研究や施業技術に活かすため、資料のデジタル化を進める契機とするこ

原稿受付：令和元年 12 月 10 日 原稿受理：令和 2 年 5 月 19 日

1) 森林総合研究所 森林植生研究領域

2) 森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点

3) 森林総合研究所 野生動物研究領域

* 森林総合研究所 森林植生研究領域 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

とである。本稿が、昭和初期の天然林の姿を今に伝える貴重な報告書目録として、広く活用されることを期待する。

2. 材料と方法

目録を作成するにあたり、国有天然林調査報告書に関わる資料の内容を一点ずつ確認した。各国有林での調査は事業区や地域単位で行われ、例えば青森営林局では、深浦事業区、大鱈・碓ヶ関事業区、十和田国立公園などが地域単位となって一連の調査が行われていた。同様に東京営林局では、阿武隈高原地方、越後村上地方、日光鬼怒川地方などの単位で調査が行われていた。この調査は、国有林全域の天然林を網羅したものではないが、北海道を除く当時のほとんどすべての天然林の群集型を取り扱っている (Fig. 1)。

前述の「国有天然林調査方法」(農林省山林局 1926)には、以下の7種類の図表を取りまとめて山林局に提出するよう営林局宛での指示があった。なお、本文献は国立国会図書館にデジタルアーカイブされており、誰でもダウンロードできる (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/981589>)。

1. 植生分布図
2. 植生調査簿
3. 樹種分布図・表
4. 林況調査表
 - 4.1 優従喬木別径級別高階別本数分配表
 - 4.2 優従喬木別樹種別径級別本数分配表
 - 4.3 優従喬木別樹種別材積表
5. 生態概況調査票
6. 生態精密調査表

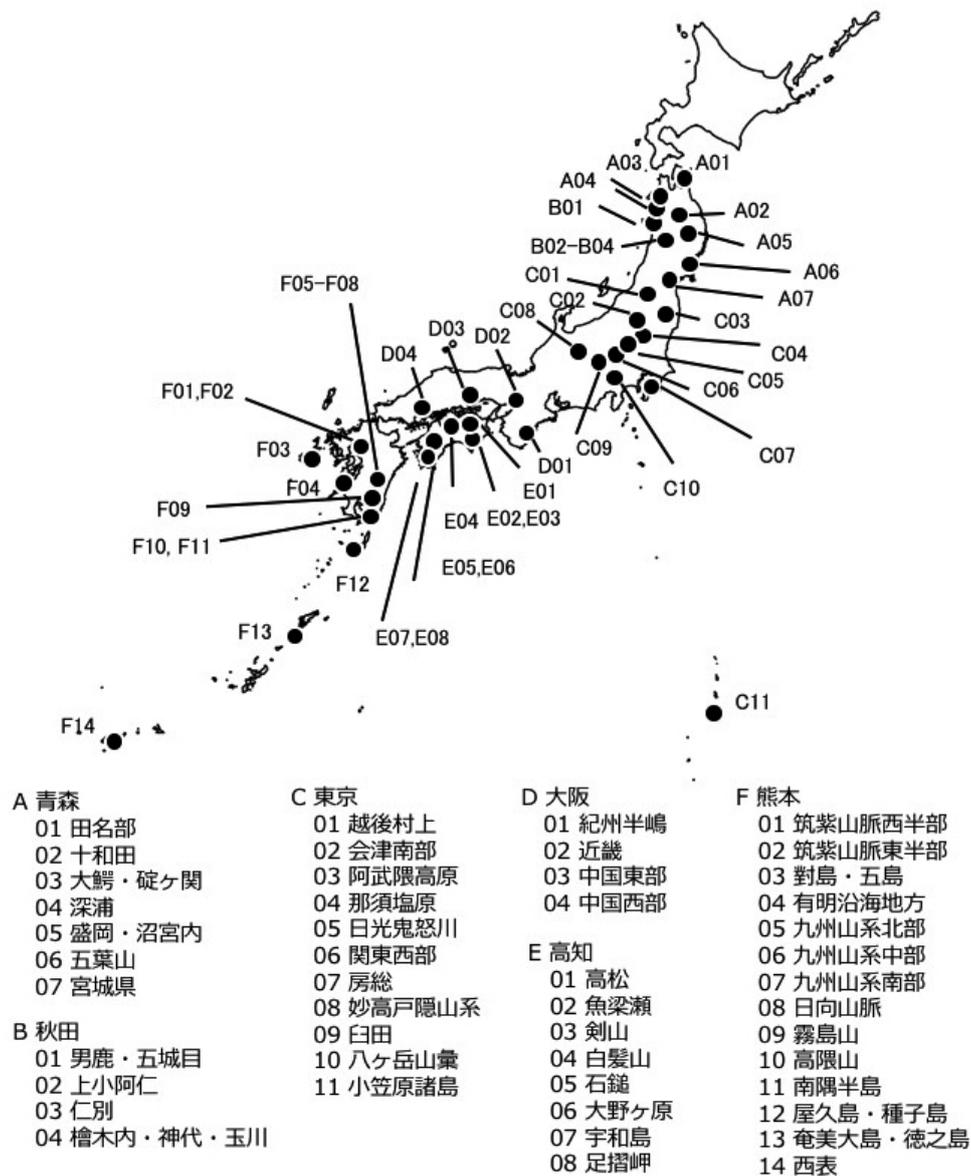


Fig. 1 調査された国有天然林の位置図。資料名に準拠し大まかな国有林の位置を示している。

6.1 コドラート図表

6.2 植生側面図及樹冠投影図（トランセクト図）

7. 植物目録

これら7項目の概要は以下のとおりである。各営林局で多少の差はあるが共通する内容を記す。

1. 植生分布図：国土地理院の地図一枚ないし数枚を連結した地図上に、森林群叢を色分けして表示した植生図である（Photo 1a）。調査対象は国有林内の天然林のみで、人工林は対象になっていない。天然林は人工植栽していないすべての森林を指す。すなわちアカマツ林やコナラ二次林など、かつて伐採されたり山火事後に更新した森林も含まれる。森林植生区分は調査地域ごとに異なり、Aa、Ab、Ba、Bb などアルファベットの略号順にその地域の森林植生を相観で分類し記載している。森林群叢の凡例を見ると、「青森営林局、十和田国立公園 Aa はひまつ群集、Ba₁ あをもりとどまつ - ちしまざさ群集」（Photo 1b）といった具合である。

2. 植生調査簿：植生分布図と対応した森林植生区分ごとの林分面積と優占種が記載された一覧表である（Photo 2a）。優占種は高木、亜高木、灌木、地表の各層ごとに記載されている（Photo 2b）。名称は植生調査簿であるが、現在の植物社会学的な植生調査方法とは異なり、決められた面積で植生被度を調査する方法ではない。

3. 樹種分布図・表：2つのタイプの樹種分布図表が含まれ、一つは同じ地図上に樹種ごとの木形スタンプが押された重要樹種分布図である（Photo 3-1）。もう一つは森林群叢ごとに各樹種の多寡を示した図表で、横軸に Aa、Ab、Ba、Bb などアルファベットで表した森林群叢、縦軸に各樹種の多寡を図示した棒グラフを一枚にまとめた図である（Photo 3-2）。このいずれか、あるいは両方を各営林局は樹種分布表として作成している。ただし、青森・秋田の両営林局の報告書に樹種分布図・表は含まれていない。

4. 林況調査表：胸高直径と樹高および材積の樹種別一覧表で、現在の毎木調査と同様の調査結果が記録されている（Photo 4a）。径級別高階別本数分配表、樹種別径級別本数分配表（Photo 4b）、樹種別材積表の3種類がある。営林局によって表の形式や資料の綴じ方は異なる。冊子体の形式が多いが、熊本営林局の調査表は集計用紙をクリップでとめただけの資料である。

5. 生態概況調査票：高木層から地表植物層まで、植物種の量的な生育状況を記号で記した一覧表である（Photo 5a）。この表は、現在行われている植生調査で作成される形式とほぼ同様である。例えば、a: abundant、f: frequent、vr: very rare などの英国方式の略号で階層ごとに各植物の生育量が記述されている（Photo 5b）。青森営林局では、植生分布図に直接、生態概況調査地点が番号で記載されているが（Photo 1a）、植生分布図に調査地点を記載していない営林局が多い。

6. 生態精密調査表：この精密調査はコドラート調査とベルトトランセクト調査の二つの結果から構成される。コドラート調査では、20 m × 20 m ないし 50 m × 50 m のコドラート（方形区）を各森林群叢の標準地に1個設定し、樹木位置を幹直径に比例した大きさの円で方眼紙に描画している（Photo 6-1）。幹直径と樹高の数字はこの円の近くに記入されている（Photo 6-1）。その他の植物名は 5 m × 5 m の方形区ごとに方眼紙に直接記載されている。本稿では用語として「コドラート」に統一しているが、原資料には「コドラート」、「コードラート」、「クオドラート」の3つが混在するため、目録中の資料名はそのままにしてある。ベルトトランセクト調査では多くの場合、20 m × 100 m のベルトトランセクトが設定され、森林植生の断面がトランセクト内に生育する樹木の幹と枝で描画され、対応する樹冠投影図が同じ紙の下部に描かれている。この図は植生側面図及樹冠投影図（トランセクト図）と呼ばれている（Photo 6-2）。これに最も似かよったベルトトランセクト図は森林植生図譜（館脇 1957、館脇・三角 1957）に見ることができる。

7. 植物目録：調査地における植物種の科別の和名と学名の一覧表となっている（Photo 7a, b）。高知営林局の資料の中には、牧野富太郎博士の書簡を書き写したと思われる記述があり、植生調査では当時の著名な植物分類学者に指導を仰いでいたことが推測される。ただし営林局により植物目録を含む場合と含まない場合がある。

これらの図表に加えて、事業区ごとに全体を取りまとめた「森林植生調査書」と呼ばれる総説的な報告書が含まれる場合が多い（Photo 8）。営林局によってはさらに写真帳（Photo 9a, b）や植生トランセクト図が含まれる調査区もある。

著者らはこれら7項目を確認しながら、営林局別に調査報告書の目録を作成した（Table 1 から Table 6）。森林総合研究所に現存するのは青森営林局から熊本営林局までの六つの営林局の報告書である。報告書は各営林局内の事業区あるいは地域別に配列した。

目録の一行目は営林局ごとの通し番号で、二行目から「地域名」、「資料名」、「タイプ」、「形状」、「年代」、「備考」の六項目の順に記載した。「地域名」は原本にしたがい、各営林局管内の事業区名や営林署名を便宜的な単位とした。この地域名は国土地理院の地図に記載された市町村名と異なることもある。実際の調査は、国有林の林班を単位に面的に行われたが、本稿では便宜的に各地域の位置を点で示した（Fig.1）。「資料名」は当該資料の表紙や封筒の表記のままとし、旧字体のまま記載した。「資料名」と内容に若干の食い違いが見られたが、今後の報告書のデジタル化を考え原本の名前に従った。ただし個別の報告書が入っていた封筒の表書きは、林業試験場の関係者が整理のため戦後に記した可能性もあるので、いくつかの資料名は山林局に提出された報告書原本の資料名とは異なる可能性がある。本稿で作成した目録では、「國

有天然林調査方法」(農林省山林局 1926)に基づき、調査報告書の種類を調査説明書、植生分布図、重要樹種分布図、重要樹種分布表、植生調査簿、生態概況調査票、写真帳、地質図、植物目録、林況調査表、トランセクト図、コードラート図、気候図、土壌調査表、その他、の15「タイプ」に区分した。「形状」は現物の保管の形状で冊子体は1冊、地図などは1枚、封筒入りは1袋などと記載した。「年代」は調査報告書に記された調査または取りまとめの年で、調査年と取りまとめ年の区別はせず記載した。「備考」には著者らの判断による中身の概要を記載した。古い資料のため、破損の怖れがある地図の枚数や表のページ数などは無理に数えなかった。したがって、ここで示す目録は厳密に地図や図表を一枚ずつ記載した目録ではない。

3. 結果と考察

3.1 営林局ごとの報告書の残存状況

基本的にすべての営林局がこの調査方法の指示に従って調査を行い、図表を取りまとめたはずであるが、そのすべてが森林総合研究所に引き継がれたのかは不明である。北海道の調査報告書は今回発見された原本には含まれていなかった。当時、内務省北海道庁、宮内省皇室林野局の傘下にあった北海道の国有林では、農林省山林局の指示に従った調査は省組織の違いから行われなかったと推察する。あるいは類似の調査が行われても資料は山林局に提出されなかった可能性もある。

調査報告書数は営林局の間で大きな違いがあり、青森営林局 75 件 (Table 1)、秋田営林局 11 件 (Table 2)、東京営林局 164 件 (Table 3)、大阪営林局 19 件 (Table 4)、高知営林局 139 件 (Table 5)、熊本営林局 254 件 (Table 6)、となっている。ただし冊子体となっている資料や封筒に入れている資料は1件と数え、地図も同じ1件の資料として数えたので、データ総量と調査報告書件数とは単純に一致しているわけではない。

1. 青森営林局

青森県、岩手県、宮城県の3県を管轄している (Table 1)。青森県内の調査地では大鱈・碓ヶ関、十和田国立公園、深浦、田名部の4地域の資料、31件が残されている。岩手県内の調査地では五葉山、盛岡・沼宮内地域の19件が残されている。岩手県内の調査地は事業区単位ではなく、盛岡市を通る北緯39度42分を基準とし、この基準線の南北20kmの範囲に含まれる国有林を対象としている。調査報告書ではこの範囲を「基準帯」と呼んでいる。宮城県内は国有林の面積が少ないため、事業区単位で網羅的に調査され、24件の調査報告書が残されている。青森営林局の資料の特徴は調査説明書、植生分布図、写真帳、生態概況調査表が他の営林局と比べよく残っていることである。特に十和田国立公園の植生分布図に生態概況調査の調査地点がすべて図示されていることは特筆される。なぜならこの地図があれば、同じ地点での現植生の再調査が可能になるからである。十和田国立公園地域では、

植生調査説明書 (Photo 8)、写真帳 (Photos 9a, b)、植生図 (Photos 1a, b)、植生調査簿 (Photos 2a, b)、生態概況調査票 (Photos 5a, b) が残されていた。これらに加えて、八甲田登山道路に沿った植生トランセクト断面図と平面図、トランセクト標準地生態概況調査票があった (Photo 5b と同じ様式)。残念ながら、十和田国立公園地域では、林況調査表、生態精密調査のコードラート図表と植生側面図及樹冠投影図 (トランセクト図) は資料に含まれていなかった。これらの欠けた資料は、調査がなされていないのか、資料がどこかで失われて現存しないのかは不明である。

2. 秋田営林局

調査報告書が少なく、秋田県内の仁別、上小阿仁、男鹿・五城目、檜木内・神代・玉川の各地域で11件の報告書が残されている (Table 2)。植生分布図、植生調査簿、生態概況調査票、林況調査表は含まれているが、調査説明書と写真帳は残されていない。トランセクト図は原図ではなく、原図を撮影した写真がコピーとして山林局に提出されたようである。

3. 東京営林局

福島県、新潟県を含む関東一円と東海地方も管轄しており、164件と多くの調査報告書が残されている (Table 3)。福島県内では阿武隈高原方面、会津南部地方、新潟県内では越後村上地方、群馬県内では関東西部地方、東京都では小笠原諸島、栃木県では那須塩原方面、日光鬼怒川方面、長野県内では八ヶ岳山麓、妙高戸隠山系、白田事業区、千葉県内では房総方面の11地域が確認できた。東京営林局管内の資料は、写真帳を含め多くの種類の報告書がよく残っている。例えば小笠原諸島の調査説明書、植生分布図、植生調査簿、生態概況調査票、林況調査表、コードラート図などは現在の小笠原の森林保全を考える上で貴重な昭和初期の資料である。

4. 大阪営林局

当営林局管内は国有林が少ないせいか、紀州半島、近畿、中国西部、中国東部の4地域、19件の調査報告書にとどまっている (Table 4)。生態概況調査票はないが、他の資料は残っている。大阪営林局の報告書に含まれる地図やコードラート図、トランセクト図は大判で通常サイズの保存容器に入らないので、傷みやすく保管に困難が伴う。

5. 高知営林局

当営林局管内の調査は愛媛県内の宇和島、石鎚、大野ヶ原、高知県内の魚梁瀬、白髪山、足摺岬、徳島県内の剣山、香川県内の高松の8地域にわたり、四国全体の国有林をカバーしている (Table 5)。調査報告書も写真帳以外はほぼすべて残っており、一部地域で土壌調査表や気候表が残されているのは特筆される。剣山や魚梁瀬で描かれたトランセクト図は枝振りまでも精密な森林断面図で一見の価値がある。また高知営林局は山林局の取りまとめを待たず、昭和14年には独自の報告書を公刊しており (和田ら 1939)、国有天然林調査に関して積極的な取り組みをした営林局であったことがわかる。

6. 熊本営林局

高知営林局と同様にほぼ全域の調査報告書が残されており、対馬地方・五島地方、奄美大島・徳之島地方、屋久島・種子島、西表、九州山系中部地方、九州山系南部地方、九州山系北部地方、高隈山、筑紫山脈西半部、筑紫山脈東半部地方、南隅半島、日向山脈、霧島山、有明沿海地方の14地域、254件の資料がある（Table 6）。熊本営林局の資料は写真帳が欠けている以外、九州本土のほとんどの資料が残っている。島嶼部も部分的ではあるが資料が残っており、屋久島の調査説明書、植生分布図、生態概況調査票が残っているのは貴重である。霧島山でも植生図や林況調査表、コドラート図が多数残っており、昭和初期以降の噴火を含む約90年間の植生変化の大きさを考えると、今後の森林遷移の研究にとって重要な資料となるはずである。

3.2 これまでの調査報告書の公開状況

今回発見された報告書の内容のほとんどは公開されないままになっているが、部分的には各営林局が印刷公開している。これらは森林総合研究所や国立公文書館、国立国会図書館に閲覧可能な文献として保管されている。代表的なもの5報の概要を以下に記す。

1. 高知営林局管理国有林植生調査報告（和田ら 1939）

高知営林局が山林局の取りまとめを待たず、独自に取りまとめた調査報告書で昭和初期に行われた国有天然林調査の全体像がわかる貴重な学術資料である。

2. 岩手縣基準帯国有天然林植生概況（青森営林局 1935a）

盛岡を中心とした岩手県内の調査地の植生概要と植生図を取りまとめた報告書。

3. 宮城県山嶽地帯国有天然林植生概況（青森営林局 1935b）

宮城県内の国有天然林の植生概要と植生図を取りまとめた報告書。

4. 管内国有天然林植生調査の概要（二）、高隈山及霧島山の部（熊本営林局植生係 1938）

今回、森林総合研究所で発見された高隈山植生調査説明書や霧島山植生調査説明書を基に植生調査結果を記述した冊子である。植生分布図や各種の表などは印刷用に清書され、森林総合研究所で今回発見された調査説明書の原図や原簿よりきれいになっている。

5. 霧島山に於ける植物群落組成調査及び植生連続（遷移）に関する考察（荒川 1931）

この文献には植生調査を担当した熊本営林局技手の荒川潔氏の復命書を基に、林業試験場技師の河田杰氏の校閲を経て刊行されたという前書きがある。熊本営林局管内のすべての植生調査をまとめるのに時間がかかるので、霧島山系というまとまりのある部分から印刷用に取りまとめたものと推察される。

この他に雑誌「林友」や東京営林局報、林学会誌に発表されたものがいくつかある（栗田 1933, 高橋 1928, 1932,

1935, 東京営林局 1939, 藤島 1932）。

以上のように、植生概況と植生図、植物目録の一部は公開されたが、公開されたデータは目録に挙げた原データ量と比べると1割にも満たず、明らかに少ない。まして、林況調査（毎木調査データ）や、精密調査（コドラート図、森林断面図・樹冠投影図）の結果は高知営林局の例（和田ら 1939）を除いて、これまで全く公開されていない。

3.3 調査報告書が残されてきた経緯

農林省山林局の官僚であった早尾丑磨氏は、林業試験場の技師であった寺崎渡氏、河田杰氏、栗田勲氏と続く明治から昭和にかけての森林研究者の系譜があるとして、以下のように記述している（早尾 1963）。「寺崎直系の河田杰は、森林植生調査方法を立案したので、国有林は全管内調査に着手し、数年間の営林局調査報告書を得たが、後継者栗田との意見齟齬して膨大な調査書は戦後業務課より林試（著者注：現森林総合研究所）に引き継がれた儘「日本森林植生調査書」はついに纏まらずに書庫に眠っている」。実際には河田氏が寺崎（1925）の林学会誌の論文「本邦天然生林ノ森林調査法ニ就イテ」を参考にしながら、留学先で学んだ英国式の植生調査法（Tansley 1939）に準拠し、「国有天然林調査方法」（農林省山林局 1926）を書き上げたようである。しかしこの「国有天然林調査方法」に河田氏の著者名はない。今回発見された「小笠原森林調査書」（東京営林局 1939）の後書きには、調査時に山林局業務課兼務 東京営林局技手であった栗田氏が調査に関わった旨の記載があり、その後林業試験場の研究員となる栗田氏の国有天然林調査への現場での関わりが確認できる。

なお整理した古い資料の中に「国有天然林調査取纏要領」という表書きの山林局が発行したと思われる発行年不明の文書が残されており、山林局が取りまとめる資料の種類とその詳細な目次案が暫定案として示されている。それによれば、森林植生調査書、林況調査書、重要樹種分布調査書、植物目録（植物区系調査書）の4つが取りまとめられる予定であったことがわかる。その後、なぜ山林局で報告書が取りまとめられることなく、戦後になって資料が林業試験場に移されたのかは不明である。

なお農林省の昭和13年10月1日時点での職員録（農林大臣官房秘書課 1938）によると、山林局、営林局関係の研究者の名前が確認できる。これを見ると、戦後、「河田と栗田の意見齟齬して・・・」と著作に記述した早尾氏は当時の山林局業務課長として、青森営林局長（調査時）の河田氏、東京営林局（調査時）栗田氏の両者をよく知る立場だったことがわかる。同じく昭和13年の職員録には、当時、秋田営林局所属の四手井綱英氏（後の林業試験場雪害研究室長、京都大学林学科森林生態学講座教授）が応召中との記載があり、通常の森林管理や調査研究活動が難しくなっていくこの時代の困難さを表している。同じく職員録には林業試験場造林部嘱託員として牧野富太

郎氏、また施業部嘱託員として寺崎氏の名前があり、国有天然林調査に両名も関係する立場にいたことがわかる。

国有天然林調査の行われた1926年（昭和元年、大正15年と同じ年）から1939年（昭和14年）は、TansleyのAims and methods in the study of vegetation (1926) から The British Islands and their vegetation (1939) の出版時期に重なる (Tansley 1939, Tansley・Chipp 1926)。この時期には植生学に関して、ウプサラ学派の Du Rietz や Cajander、チューリッヒ・モンペリエ学派の Braun-Blanquet の主著が相次いで公刊された (Braun-Blanquet 1928, Cajander 1926, Rietz 1936)。揺籃期にあった海外の植生学の3つの学派、英国学派、ウプサラ学派、チューリッヒ・モンペリエ学派のいずれが、戦後の日本で生き残ったかを考えると「河田と栗田の意見齟齬して」の内容がわかってくるのではないだろうか。早尾(1963)に意見齟齬してまとまらなかったと言われた両研究者の戦後の論文から齟齬の中身を推察してみる。河田氏は1953年に林業試験場研究報告に最後の論文を掲載し、その中に日本森林植生大群分布概念図を残している (河田・林 1953)。これは大正15年の「国有天然林調査方法」から一貫した Tansley-Raunkiaer に準拠した相観と生活型に基づいた森林植生の認識を示している。一方、栗田氏は1955年に亜高山針葉樹林の生態学的研究で学位を取得して林業試験場から転出し、1957年から25年間、日本大学林学科の教授を務めた。この学位研究の内容は森林立地に4回にわたって掲載された (栗田 1982a, b, 1983a, b)。内容は戦後主流となったチューリッヒ・モンペリエ学派の群落調査法に基づく組成研究、群落分類である。言ってみれば両者の齟齬とは、植生調査自体がイギリス式の相観重視から、チューリッヒ・モンペリエ学派の組成表方式へと大きく転換された結果であると推察する。

河田氏の最後の論文 (河田・林 1953) の共著者である林弥栄氏は、林業試験場の植生研究室長や樹木研究室長を戦後に務めたにもかかわらず、早尾 (1963) の記述には出てこない。しかし林氏の主要論文である「日本産重要樹種の天然分布 針葉樹 (第一報、第二報、第三報)」 (林 1951, 1952, 1954) には、今回発見した営林局の報告書がほぼすべて引用されている。この林氏の論文は河田氏の昭和15年の著作 (河田 1940) を引き継ぐ内容で、河田氏と林氏の親密さを伺わせる。河田氏の亡くなる1955年の前年までは、林業試験場内に、この報告書の存在を知り利用する立場の林氏のような研究者が存在したことになる。栗田氏は当然、この報告書の存在を知っていたはずであるが、後の著作に報告書は直接引用されておらず、公表済みの文献のみを引用している (栗田 1982a)。しかし昭和25、26年度の林業試験場年報 (農林省林業試験場 1951, 1952) には河田、栗田、林の三氏が国有天然林植生調査の取りまとめ担当者であるとの記述が残っている。この時点では栗田氏もこの報告書全体を取りまとめる立場にいたことがわかる。

戦後、林氏の後に林業試験場植生研究室長となった草下正夫氏によれば、大正末期に各営林局に森林植生調査係が設けられ、河田氏が各営林局の植生調査に対する指導者になり、「世は植生を知らざれば林業人にあらずといってもいいすぎではない時代がやって来た」、と記述されている (草下 1954)。この草下氏の小論には、植生調査係として村井三郎氏・木村武松氏・佐伯直臣氏 (青森営林局)、栗田氏・高橋松尾氏 (東京営林局)、林氏 (林業試験場)、宮崎紳氏 (青森営林局、林業試験場)、和田豊洲氏・朝田盛氏 (高知営林局) など、その後活躍した研究者の名前が挙げられている。しかし第二次世界大戦を契機に、天然更新のための森林植生重視の機運は失われ、林野行政の中で森林植生重視の造林関係者は冷遇されたと草下 (1954) は述べている。ただ、冷遇された具体的な理由は述べられていない。戦後は植生調査係ではなく土壌調査係が各営林局に設けられ、後に林業試験場の場長となる大政正隆氏の指導の下、土壌調査が各営林局で盛んになされた。

このように天然林の生態調査が重視された時代が大正から昭和の始めにあったが、貴重な調査報告書は戦後に林野庁から林業試験場に移され、段ボール箱に眠ったまま森林総合研究所で保管されてきたことが明らかになった。これが今回発見された国有天然林調査報告書原本の由来である。

3.4 資料の保管状態

東京営林局の資料は綴じられた冊子体がほとんどで保存状態も比較的良いが、熊本営林局の資料は集計用紙や図表がクリップで留められ、森林群集ごとに封筒に袋詰めされている状態であった。クリップなどの金属は腐食が激しく、また紙質の悪い封筒はぼろぼろの状態であったので、熊本営林局の資料だけはクリップを取り除いて新しい封筒に入れ替えた。他の営林局でも冊子体の資料は問題が少ないとはいえ、紙の劣化が進んで破れやすく、コピーやpdf化が簡単にできるような状態ではない。全般に慎重な取扱が必要である。封筒に入れられた資料は折れ曲がりや汚れが多く、今後の科学的な研究利用のためのデジタル化に向けて保存対策が急務である。また大判の地図類は保管箱がなく、折りたたまれ、むき出し状態のまま痛みが激しいものもあるので、貴重な資料を研究に利用可能な状態で今後も保存していくための手立てが急務である。

3.5 今後の調査報告書原本の活用に向けて

古い資料を整理し、調査報告書の目録を整備したのは、650件を越える膨大な資料を研究利用するための第一歩である。調査報告書に含まれるデータに科学的価値が認められれば、デジタル化して具体的な森林研究に利用できる可能性が広がる。森林植生分布図だけでも、昭和初期の天然林分布を知る上で十分価値は高い。同様に写真帳

は、戦後の拡大造林期に失われたであろう天然林の外観を記録した貴重な資料である。生態概況調査票の名で残された大量の森林植生データは、現在の植物社会学の主流となった Braun-Blanquet の組成表方式 (Braun-Blanquet 1932) とは異なり、イギリスで行われていた Tansley 方式である (Tansley 1920)。植物社会学の被度階級を基本とした調査ではなく、abundant、frequent、rare など、大まかな植生量の区分を記載するものである。しかし、現在使われている被度階級に換算可能な定量的データであり、森林植生の歴史の変遷の検証など今後の研究への活用が期待できる。林況調査表 (毎木調査データ) は、膨大な量の幹直径と樹高のデータを含んでおり、例えば多くの日本産樹木の樹高曲線の研究に使えるのではないかと考える。精密調査として行われたコドラート調査とトランセクト調査は、ほぼ現在の森林生態学の研究手法に近く、膨大なデータは樹木の空間分布や樹型解析など、様々な研究アイデアの検証に使えると期待する。トランセクト図として描画された森林断面図と樹冠投影図はきわめて精細で樹型や枝張りが写實的に描画されている (Photo 6-2)。これも画像解析の新たな手法で樹型の樹種特性が解析できるのではと期待する。また八甲田山や栗駒山などの山岳地帯の調査地では森林限界附近の詳細な植生トランセクト図が残っており、気候変動に伴う森林植生帯の垂直変化が検証可能と考える。いずれにせよ紙ベースの数値データも画像データもデジタル化しないと研究者が利用できない。今後は営林局ないし地域ごとに、より詳細な報告書目録の作成、数値データのデジタル化、地図など画像データのジオリファレンス化により、多様な分野の研究者のデータ活用に道を開く必要がある。著者らはこの歴史的森林調査資料に興味を持つ研究者の方々と、デジタル化での協働や古いデータを解析する方法論も含め、共同研究を進めたいと考えている。

謝 辞

千葉県中央博物館図書室ならびに千葉県生物学会事務局 齋木健一氏には文献の入手でお世話になった。東京大学大学院農学生命科学研究科 根本正之氏には関連文献をご教授いただいた。元林業試験場植生研究室長 谷本丈夫氏には原稿に対し貴重なコメントを頂戴した。森林総合研究所群落動態研究室の非常勤職員、大鐘康子さんと細井雅子さんには、ほこりまみれの古い資料の整理を手伝っていただいた。ここに感謝する。

引用文献

青森営林局 (1935a) 岩手縣基準帯国有天然林植生概況. 青森営林局, 59 pp.
 青森営林局 (1935b) 宮城県山嶽地帯国有天然林植生概況. 青森営林局, 55 pp.
 青森営林局 (1936) 管内要覧 (昭和九年). 青森営林局, 284 pp.

青森営林局 (1937) 管内要覧 (昭和十年). 青森営林局, 311 pp.
 荒川 潔 (1931) 霧島山に於ける植物群落組成調査及び植生連続 (遷移) に關する考察. 熊本営林局, 74 pp.
 Braun-Blanquet J. (1928) Pflanzensozioologie : Grundzüge der Vegetationskunde. Springer, 330 pp.
 Braun-Blanquet J. (1932) Plant sociology. translated, revised and ed by G.D. Fuller and H.S. Conard, McGraw Hill Publications, New York, 439 pp.
 Cajander A. K. (1926) Theory of forest types. Society for the Finnish Literary, 108 pp.
 Du Rietz G. E. (1936) Classification and nomenclature of vegetation units. 1930-1935. Svensk Botanisk Tidskrift, Bd. 24, 489-503.
 藤島 信太郎 (1932) 東京営林局管内国有林 森林植生の類別. 林友, 204, 1-23.
 早尾 丑麿 (1963) 林政五十年 (一林業技術者の歩んだ道). 日本林材新聞社, 317-318 pp.
 林 弥栄 (1951) 日本産重要樹種の天然分布 針葉樹 (第1報). 林業試験場研究報告, 48, 1-240.
 林 弥栄 (1952) 日本産重要樹種の天然分布 針葉樹 (第2報). 林業試験場研究報告, 55, 1-251.
 林 弥栄 (1954) 日本産重要樹種の天然分布 針葉樹 (第3報). 林業試験場研究報告, 75, 1-173.
 河田 杰 (1940) 四季を通ずる降水量の配布状態がスギ、ヒノキの分布に及ぼす影響. 興林會, 95 pp.
 河田 杰・林 弥栄 (1953) 鹿島灘沿岸地方における2国有林の植物調査報告. 林業試験場研究報告, 63, 9-74.
 熊本営林局植生係 (1938) 管内国有天然林植生調査の概要 (二) 高隈山及霧島山の部. 熊本営林局, 88 pp.
 栗田 勲 (1933) 高原山森林植生の分布に就いて. 東京営林局報, 1, 16-36.
 栗田 勲 (1982a) 亜高山帯針葉樹林の生態学的研究 (I). 森林立地, 24(1), 1-9.
 栗田 勲 (1982b) 亜高山帯針葉樹林の生態学的研究 (II). 森林立地, 24(2), 7-15.
 栗田 勲 (1983a) 亜高山帯針葉樹林の生態学的研究 (III). 森林立地, 25(1), 31-37.
 栗田 勲 (1983b) 亜高山帯針葉樹林の生態学的研究 (IV). 森林立地, 25(2), 1-9.
 草下 正夫 (1954) 森林生態学の日本における発端と研究方針に關する第三者的批判. 千葉県植物誌 基礎資料, 4, 20-23.
 農林大臣官房秘書課 (1938) 農林省職員録. 農林大臣官房秘書課, 737 pp.
 農林省林業試験場 (1951) 研究所年報 昭和25年度. 農林省林業試験場, 184 pp.
 農林省林業試験場 (1952) 研究所年報 昭和26年度. 農林省林業試験場, 285 pp.
 農林省山林局 (1926) 国有天然林調査方法. 農林省山林局,

- 51 pp.
- 高橋 松尾 (1928) 北阿武隈地方の植生範型 (豫報). 林友, 166, 38-45.
- 高橋 松尾 (1932) 阿武隈高原方面 重要樹種の分布に関する調査. 林友 (附録), 205, 1-31.
- 高橋 松尾 (1935) 中部日本の森林植生 I. 植生の分類 (豫報). 日本林學會誌, 17, 935-961.
- 高橋 松尾・横幕 捨次郎 (1927) 植生調査に就いて. 林友, 154, 13-21.
- 高橋 松尾・横幕 捨次郎 (1928a) 植生調査に就いて (承前). 林友, 155, 48-54.
- 高橋 松尾・横幕 捨次郎 (1928b) 植生調査に就いて (承前). 林友, 158, 31-42.
- Tansley A. G. (1920) The classification of vegetation and the concept of development. *Journal of Ecology*, 8, 118-148.
- Tansley A. G. (1939) *The British islands and their vegetation*. Cambridge University Press, 930 pp.
- Tansley A. G. and Chipp T. F. (1926) Aims and methods in the study of vegetation. *British Empire Vegetation Committee and Crown Agents for the Colonies*, London, 383 pp.
- 館脇 操 (1957) 日本森林植生図譜 (II) 屋久島の森林植生. 北海道大学農学部学演習林研究報告, 18, 53-148.
- 館脇 操・三角 亨 (1957) 日本森林植生図譜 (III) 南九州の森林植生. 北海道大学農学部学演習林研究報告, 18, 149-207.
- 寺崎 渡 (1925) 本邦天然性林ノ森林調査法ニ就テ. 林学会雑誌, 32, 36-64.
- 東京営林局 (1939) 関東西部地方植生調査概報. 東京営林局報, 54, 1-94.
- 和田 豊洲・宮崎 榊・常石 雅實 (1939) 高知営林局管理国有林植生調査報告. 高知営林局, 217 pp.
- 渡邊 定元 (2002) 森林生態学と林業・林学との関わりの歴史. *森林科学*, 36, 4-15.
- 渡邊 定元 (2003) 天然林施業技術の評価と課題. *日本林学会誌*, 85, 273-281.

Table 1. 青森営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
1	大鰐、碓ヶ関	大鰐、碓ヶ関両事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		植生類別表が主体で、調査地の記載や方法の記載はない
2	大鰐、碓ヶ関	大鰐碓ヶ関両事業区 写真帖	写真帳	1冊		
3	大鰐、碓ヶ関	大鰐トランセクト断面図 A線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
4	大鰐、碓ヶ関	大鰐トランセクト断面図 C線	植生分布図	1枚		同上
5	大鰐、碓ヶ関	大鰐碓ヶ関事業区 植生分布図 山林局	植生分布図	6枚		彩色の美しい植生分布図
6	大鰐、碓ヶ関	トランセクト平面図 青森営林局	植生分布図	5枚		碓ヶ関ベルトトランセクト A線、B線、大鰐ベルトトランセクト A線、B線、C線の5枚。群叢ごとの彩色植生図
7	大鰐、碓ヶ関	大鰐碓ヶ関両事業区 植生概況調査票	植生調査簿	1冊	昭和12年	階層別の植生調査表、林小班名あり
8	大鰐、碓ヶ関	大鰐碓ヶ関両事業区 トランセクト 標準地 概況調査表	生態概況調査表	1冊	昭和12年	
9	大鰐、碓ヶ関	碓ヶ関トランセクト断面図 B線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
10	大鰐、碓ヶ関	大鰐トランセクト断面図 B線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
11	大鰐、碓ヶ関	大鰐・碓ヶ関及其ノ附近 地質図	地質図	1枚		群系ごとの彩色地質図
12	十和田	十和田国立公園地域（十和田湖・八甲田山地 方）植生調査説明書 植生調査係	調査説明書	1冊		青森営林局植生係と記載あり。八甲田山の森林の垂直分布について詳細な図があり
13	十和田	十和田国立公園 写真帖	写真帳	1冊		
14	十和田	十和田国立公園 植生分布図（重要）	植生分布図	2枚		彩色の美しい植生分布図。標準地の位置がすべて落ちてきているのできわめて重要な地質図。再調査が可能かもしれない。地質図も貴重
15	十和田	十和田国立公園（重要）トランセクト平面図 八甲田山登山道路線	植生分布図	1枚		彩色の美しいベルトトランセクト植生分布図。標準地の位置が落ちている
16	十和田	十和田国立公園 植生調査簿	植生調査簿	1冊		
17	十和田	十和田国立公園 生態概況調査票 青森営林局 植生調査係	生態概況調査表	1冊		階層別の植生調査表、林小班名なし
18	十和田	十和田国立公園 生態概況調査票	生態概況調査表	1冊		
19	十和田	トランセクト断面図 八甲田登山道路線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
20	十和田	八甲田山トランセクト標準地調査表	生態概況調査表	1冊	昭和7年	トランセクト調査地の生育概況調査表
21	深浦	深浦植生調査説明書	調査説明書	1冊		村井三郎技師調査
22	深浦	深浦事業区 写真帖	写真帳	1冊		
23	深浦	深浦事業区 植生分布図	植生分布図	1枚		群系ごとの彩色植生図（標準地の記載あり）
24	深浦	深浦事業区 植生概況調査票	植生調査簿	1冊	昭和11年	階層別の植生調査表、林小班名あり
25	深浦	深浦事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊		
26	田名部	田名部事業区 恐山園地 植生調査説明書	調査説明書	1冊		植生類別表が主体で、調査地の記載や方法の記載はないが、恐山周辺の植生分類としては貴重
27	田名部	田名部事業区 恐山園地 植生写真帖	写真帳	1冊		

Table 1. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
28	田名部	田名部事業区 恐山園地 植生分布図	植生分布図	1枚		彩色の美しい植生分布図
29	田名部	田名部事業区 恐山園地 植生概況調査票	植生調査簿	1冊	昭和11年	階層別の植生調査表、林小班名あり
30	田名部	田名部事業区 恐山園地 植生調査簿	植生調査簿	1冊		植物群系ごとの大まかな住所や面積の一覧表
31	田名部	田名部事業区 トランセクト標準地調査表	生態概況調査簿	1冊	昭和12年	植生調査
32	五葉山	盛営林署管内 五葉山園地 植生説明書	調査説明書	1冊		青森営林局植生係と記載あり。植生類別表が主体で、調査地や方法の記載はない
33	五葉山	盛営林署管内 五葉山園地 植生写真帳	写真帳	1冊		
34	五葉山	気仙沼事業区 4片之内第一片五葉山園地 植生分布図	植生分布図	1枚		彩色の美しい植生分布図。標準地の位置が落ちている
35	五葉山	五葉山 トランセクト断面図 A 線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
36	五葉山	トランセクト平面図 青森営林局	植生分布図	2枚		五葉山ペルトルトランセクト A 線、B 線。群叢ごとの彩色植生図
37	五葉山	五葉山 トランセクト断面図 B 線	植生分布図	1枚		トランセクト調査の植生図と標準地の位置が入ったもの
38	五葉山	盛営林署管内 五葉山園地 植生概況調査表	植生調査簿	1冊	昭和13年	植生調査、林班名、小班名有り
39	五葉山	盛営林署管内 五葉山園地 トランセクト A・B 標準地概況調査表	生態概況調査表	1冊	昭和13年	トランセクト 200 m ごとに植生調査
40	五葉山	盛営林署管内 五葉山園地 植物目録	植物目録	1冊	昭和13年	
41	盛岡、沼宮内	植生調査説明書 二冊之ノ内第二	調査説明書	1冊		盛岡事業区、花巻事業区 岳川流域地方、門間事業区、岩泉事業区、宮古事業区
42	盛岡、沼宮内	植生調査説明書 二冊之ノ内第一	調査説明書	1冊		沼宮内事業区南部、瀧澤事業区南部、雫石事業区北部、雫石事業区南部、紫波事業区
43	盛岡、沼宮内	植生調査写真帳 二冊の内一冊	写真帳	1冊		記載ないが岩手山、姫神山の写真
44	盛岡、沼宮内	基準帯内国有林位置図 植生分布図 トランセクト調査圖	植生分布図	1冊		盛岡、岩泉、宮古周辺の植生分布図（標準地の番号と位置が植生図に記載されている）とトランセクト調査図（30枚）
45	盛岡、沼宮内	植生調査簿 青森営林局	植生調査簿	1冊		岩手県内の植生調査簿
46	盛岡、沼宮内	国有天然林林況調査票 1	林況調査表	1冊	昭和5年	北上川以西
47	盛岡、沼宮内	国有天然林林況調査票 2	林況調査表	1冊	昭和4年	北上川以东
48	盛岡、沼宮内	生態概況調査票 1	生態概況調査表	1冊		北上川以西、沼宮内、雫石、紫波など
49	盛岡、沼宮内	生態概況調査票 2	生態概況調査表	1冊		北上川以东、盛岡、門間、岩泉など
50	盛岡、沼宮内	岩手県基準帯内植物目録	植物目録	1冊		標本は青森営林局と盛岡高等農林に所蔵と記載、同定は牧野博士以下、錚々たる名前が記載されている
51	宮城県	加美事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		植生類別表が主体で、調査地や方法の記載はない
52	宮城県	丸森事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
53	宮城県	玉造事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
54	宮城県	栗駒事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
55	宮城県	石巻事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上

Table 1. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
56	宮城県	仙台事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
57	宮城県	白石事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
58	宮城県	本吉事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
59	宮城県	嶽山事業区 植生調査説明書	調査説明書	1冊		同上
60	宮城県	加美事業区 植生調査写真帖	写真帳	1冊		
61	宮城県	岳山事業区 植生調査写真帳	写真帳	1冊		
62	宮城県	玉造事業区 植生調査写真帳	写真帳	1冊		
63	宮城県	石巻事業区 植生調査写真帖	写真帳	1冊		
64	宮城県	白石事業区 植生調査写真帳	写真帳	1冊		
65	宮城県	本吉事業区 植生調査写真帳	写真帳	1冊		
66	宮城県	宮城縣内 國有天然林植生調査 植生分布圖 トランセクト調査圖 其他	トランセクト図	1冊	昭和10年	青森營林局管内図、山嶽林地方(栗駒、玉造、加美、岳山、白石各事業区)植生分布圖(標準地の番号と位置の記載あり)、トランセクト調査図(10枚、彩色) 天然林調査の結果の植生分布図で重要、同じ地図が2袋(2枚入り)有り
67	宮城県	宮城県山岳地帯 國有天然林植生概況附図	植生分布図	2袋		
68	宮城県	宮城県山岳林地方 植生調査林況調査票	林況調査表	1冊		
69	宮城県	加美事業区 植生調査 生態概況調査票	生態概況調査表	1冊		中身は生態概況調査表。階層別の植生調査表、林小班名なし、凡例の説明あり
70	宮城県	玉造事業区 植生調査 生態概況調査票	生態概況調査表	1冊		同上
71	宮城県	栗駒事業区 植生調査 生態概況調査票	生態概況調査表	1冊		同上
72	宮城県	白石事業区 生態概況調査表	生態概況調査表	1冊		植生調査
73	宮城県	本吉、石巻、仙台、丸森各事業区 生態概況調査表	生態概況調査表	1冊		同上
74	宮城県	嶽山事業区 生態概況調査表	生態概況調査表	1冊		同上
75	全域	青森營林局管内図	その他	4枚	昭和7年	第一片が1枚、第二片が2枚、第三片が1枚づつある

Table 2. 秋田営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
1	仁別	基準帯一内國有林位置圖 仁別植生圖 各一葉在中	植生分布図	1袋2枚		國有林位置圖は第一基準帯 秋田管内植生圖と同じ範圍の國有林を示した地図。昭和3年10月調査 営林局技師 岩崎準次郎の名入りの植生図
2	仁別	昭和三年度 秋田営林局 仁別調査區 (第一基準帯内) 植生調査簿 生態概況調査表 径級別高階別本数分配表 樹種別径級別本数分配表 樹別本数材積表	植生調査簿 林況調査表	1冊	昭和5年	各調査簿を1冊に閉じた冊子
3	仁別	昭和3年度 秋田営林局仁別調査區 植生側面図並二樹冠投影図	トランセクト図	1冊	昭和3年	Aa-Bbの各群叢別のトランセクト図と樹冠投影図、残念ながら原図を写真に撮り貼っている。原図は1/20、写真は1/800との記載あり
4	上小阿仁	上小阿仁植生側面圖	トランセクト図	1袋図8枚		きわめて貴重なトランセクト図、樹冠投影図青焼き図、上小阿仁調査區 沖田面 藤沢 せうぶ潭 すぎ林、第一基準帯上小阿仁調査區 南澤 35林班 ブナ、スギ、ミズナラ群叢、沖田面 21林班スギ林群叢、沖田面 28林班スギ林群叢、沖田面 60林班ナラクリ群叢、萩形 1林班ブナ、ミツナラ、スギ群叢、萩形 6林班ブナ群叢、萩形 6林班スギ林群叢
5	男鹿 五城目	昭和4年度 男鹿 五城目調査區 植生側面圖並二樹冠投影図	トランセクト図	1冊	昭和5年	各群叢別のトランセクト図と樹冠投影図、残念ながら原図を写真に撮り貼っている。原図は1/200、写真は1/800と思われる。秋田営林局長から山林局長に送付した際の回覧公文書付、其の文書に同封した書類の一式が記載されている。1. 男鹿五城目調査區植生調査書、2. 植生調査簿、生態概況調査表 (各々一部宛)、3. 男鹿調査區及五城目調査區植生図各々一部宛)、4. 植生側面圖 (二十一葉)、基準帯 (一) 内管内國有林位置圖 (一葉)
6	男鹿 五城目	男鹿五城目調査區 昭和4年度 植生調査簿 並二生態概況調査表	植生調査簿 生態概況調査表	1冊	昭和5年	ほとんどが生態調概況調査表、林班名あり、トランセクトの場所の説明あり
7	檜木内、神代、玉川	事業區 39へ ナラ クリ群叢)	林況調査表	数10枚		製本が壊れて表紙がない。中身は樹種別直径分布表、神代、檜木内、玉川の各国有林
8	檜木内、神代、玉川	表紙無し (中身は生態概況調査簿：東北地方スギ・ミズナラ・ブナ・ネズコ群系 スギ群叢 神代事業區 6林班い)	生態概況調査表	数10枚		製本が壊れて表紙がない。中身は生態概況調査簿、階層別種別の優占度表。神代、檜木内、玉川の各国有林
9	檜木内、神代、玉川	秋田営林局 檜木内、神代、玉川事業區 植生分布図	植生分布図	1袋1枚		第一基準帯 秋田管内植生圖：国有林名と林班名が入った彩色の植生図。国土地理院の五万分の一の地図を20枚ほどつなぎ合わせた地図だが、国有林名が入っているのが貴重。大きさが1.8m x 1.8mくらいあるので開くのもスキヤンするのも大変と思われる
10	檜木内、神代、玉川	植生側面圖並びに樹冠投影圖 五葉	トランセクト図	5枚		きわめて貴重なトランセクト図、樹冠投影図原図、第一基準帯、神代調査區神代 62林班、39林班 ナラ、クリ群叢、玉川調査區 玉川 24林班ブナ群叢、檜木内調査區檜木内 38林班 スギ林 群叢、仙北郡中川村 アカマツ群叢
11	全域	秋田営林局管内図	その他	10数枚	昭和4年	第一片が4枚、第二片が9枚ある

Table 3. 東京営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
1	阿武隈高原方面	森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和7年	
2	阿武隈高原方面	森林植生調査書	調査説明書	1冊	昭和7年	第4章生態概況調査
3	阿武隈高原方面	森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和7年	昭和2-4年に調査、栗田勲の名前あり
4	阿武隈高原方面	森林植生分布圖	植生分布図	1冊		群叢ごとの森林植生図
5	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 中村事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
6	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 新館事業区及び福島営林署信夫事業区一部 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
7	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 原町事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac-Ad, Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
8	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 津島事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
9	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 大堀事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
10	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 三春事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd, Ee の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
11	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 野上事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある。生態精密調査地の場所の記載あり
12	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 富岡事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
13	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 上小川事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある。生態概況調査地の場所の記載あり
14	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 郡山事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
15	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 永戸事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある。生態精密調査地の場所の記載あり
16	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 石川事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
17	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 植田町営林署 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac-Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある。生態精密調査地の場所の記載あり
18	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面調査区 町営林署 那倉事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
19	阿武隈高原方面	阿武隈高原方面 重要樹種の分布調査	樹種分布図	2冊	昭和7年	河田の国有天然林調査方法にしたがって調査した結果の一部、阿武隈方面についてのとりまとめ

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
32	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 林況調査簿 海岸林 Ac クロマツ ヤブニクケイ ノキ 群叢 Ad クロマツ アカマツ群叢	林況調査表	1冊	昭和3年	阿武隈高原方面調査区 其ノ三町事業區 相馬郡磯部村大洲国有林 林況調査表 中村事業區 63 福島県
33	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其一町営林署 中村事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da1-Dd9 までの全層での生育状況調査
34	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其二町営林署 新館事業區及び福島營林署信夫事業區一部 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da-Dd までの全層での生育状況調査
35	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其三町営林署 原町事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da1-Dd6, Ac1-Ac4 までの全層での生育状況調査
36	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其四江營林署 津島事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da&cl-Dd14 までの全層での生育状況調査
37	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其五江營林署 大堀事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da1-Dd, Ac までの全層での生育状況調査
38	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其六山營林署 三春事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	Da1-Dd, Ee までの全層での生育状況調査
39	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其七岡營林署 野上事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd までの全層での生育状況調査
40	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其八岡營林署 富岡事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac, Da-Dd までの全層での生育状況調査
41	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其十山營林署 郡山事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd までの全層での生育状況調査
42	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其十一平營林署 永戸事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd までの全層での生育状況調査
43	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其十二石川營林署 石川事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd までの全層での生育状況調査
44	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其十三植田町営林署 鮫川事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Ac-Da-Dd までの全層での生育状況調査
45	阿武隈高原方面	東京營林局 阿武隈高原方面調査区 其十四棚倉營林署 那倉事業區 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和2-4年	群叢 Da-Dd までの全層での生育状況調査
46	阿武隈高原方面	附表第四 阿武隈高原方面調査区 精密調査(ロードラート統計) 調査地ノ植物種ノ差別表	その他	1冊	昭和7年	精密調査区での種別の出現個体数のとりまとめ表、高橋松尾の署名あり
47	阿武隈高原方面	附表第三 阿武隈高原方面調査区 植物區系表	その他	1冊	昭和7年	植物リスト、生活型、地理分布など
48	白田事業區	白田事業區調査材料入 植生 岡部	ロードラート図	1袋		封筒1袋に、野帳五冊分、ロードラート図25調査野帳とロードラート図多数、毎木調査、稚樹調査、植生調査の手書き原簿、東京營林局 白田調査区 森林調査簿と関係があるかもしれないが中身の照合はできていない
49	白田調査区	東京營林局 白田調査区 森林調査簿	植生調査簿	1冊		林班名、小班名はあるが林班の面積と概要だけで植生や森林のデータではない。信濃、南佐久の国有林の森林簿？河田の天然林調査法とは直接関係ないかもしれない

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
50	越後村上地方	越後村上 森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和13年	
51	越後村上地方	越後村上地方調査区 写真帳	写真帳	1冊	昭和13年	
52	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和12年頃	群叢ごとの植生概況記載、備考に標準値の林小班名あり、年月日もあり
53	越後村上地方	越後村上地方調査区 樹種分布表	樹種分布図	1冊		
54	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 林況調査簿	林況調査表	1冊		中身は群叢ごと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
55	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 生態概況調査簿 (一)	生態概況調査表	1冊	昭和12年頃	群叢ごと樹種別、生育状況表 (f, r, ovr) などの記載) 備考に標準値の林小班名あり、年月日もあり
56	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 生態概況調査簿 (二)	生態概況調査表	1冊	昭和12年頃	群叢ごと樹種別、生育状況表 (f, r, ovr) などの記載) 備考に標準値の林小班名あり、年月日もあり
57	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 森林植生分布図	植生分布図	1枚		
58	越後村上地方	越後村上地方調査区 コードラート計算表	その他	1冊		
59	越後村上地方	東京営林局 越後村上地方調査区 植物目録	植物目録	1冊		科別の植物目録
60	会津南部地方	会津南部 森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和14年	高橋松尾の名前あり
61	会津南部地方	会津南部地方調査区 写真帖 昭和14年3月	写真帳	1冊		外された写真、切り取られた写真あり
62	会津南部地方	会津南部地方調査区 森林植生分布図 (只見・山口両事業区110856ヘクター)	植生分布図	1枚		A0版? 彩色森林植生図
63	会津南部地方	東京営林局 会津南部地方調査区 只見事業区 植生調査簿 (完)	植生調査簿	1冊	昭和5-7年	群叢 E-G の群集ごと面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
64	会津南部地方	会津南部地方調査区 樹種分布表	樹種分布表	1冊		
65	会津南部地方	東京営林局 会津南部地方調査区 山口営林区 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和5-7年	De 南會津郡館岩村宮里帝釋山国有林20は、E、F、Fdも国有林名あり。群叢ごと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
66	会津南部地方	東京営林局 会津南部地方調査区 只見事業区 生態概況調査簿 (完)	林況調査表	1冊	昭和5-7年	群叢 E-G までの全層での生育状況調査
67	会津南部地方	東京営林局 会津南部地方調査区 山口事業区 生態概況調査簿 (完)	林況調査表	1冊	昭和5-7年	群叢 D-G までの全層での生育状況調査
68	会津南部地方	会津南部地方調査区 コードラート計算表	その他	1冊		
69	関東西部地方	関東西部地方 植生調査 写真帳	写真帳	1冊		記載なし
70	関東西部地方	関東西部地方調査区 群叢事業区別常現種一覧表	その他	1冊	昭和6-8年	常在種一覧表だが中身はまだ不明、
71	関東西部地方	関東西部地方調査区 群叢別植物現出表	その他	1冊		D6-Fまでの群集別出現種リスト (エンングラー配列)

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
72	関東西部地方	関東西部地方調査区 Dc コナラ クリ イス プナ ケヤキ群叢 林況調査簿(一)	林況調査表	1冊	昭和6-8年	1: 優従喬木樹種別本数材積表、2: 優従喬木樹種別径級別本数分配表、3: 優従喬木樹種別高階別本数分配表、4: 径級別高階別本数分配表、林班名有り
73	関東西部地方	関東西部地方調査区 Dd コナラ クリ クス ギ カシワ退化的群叢 林況調査簿(二)	林況調査表	1冊	昭和6-8年	1: 優従喬木樹種別本数材積表、2: 優従喬木樹種別径級別本数分配表、3: 優従喬木樹種別高階別本数分配表、4: 径級別高階別本数分配表、林班名有り
74	関東西部地方	関東西部地方調査区 De ツガ イヌブナ モミ群叢 林況調査簿(三)	林況調査表	1冊	昭和8年	1: 優従喬木樹種別本数材積表、2: 優従喬木樹種別径級別本数分配表、3: 優従喬木樹種別高階別本数分配表、4: 径級別高階別本数分配表、5: 枯死木径級別高階別本数分配表、林班名有り
75	関東西部地方	関東西部地方調査区 Ea ミズナラ ダケモミ群叢 林況調査簿(四)	林況調査表	1冊	昭和6年	1: 優従喬木樹種別本数材積表、2: 優従喬木樹種別径級別本数分配表、3: 優従喬木樹種別高階別本数分配表、4: 径級別高階別本数分配表、林班名有り
76	関東西部地方	関東西部地方調査区 特殊群叢 林況調査簿(五)	林況調査表	1冊		
77	関東西部地方	東京営林局 関東西部地方調査区 コードラート計算表	その他	1冊	昭和6-9年	各種の各コードラートでの出現数?出現頻度の計算の一覧表
78	関東西部地方	関東西部地方調査区 植物目録	植物目録	1冊		
79	関東西部地方	関東西部地方調査区 気候諸表	その他	1冊		1901 - 1920年の気候
80	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 高崎営林署 其ノ一椎氷事業区 植生調査簿(一)	植生調査簿	1冊	昭和6年	森林群叢ごとの面積の一覧表
81	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 高崎営林署 其ノ二下仁田事業区 植生調査簿(二)	植生調査簿	1冊	昭和8年	同上
82	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 秩父営林署 其ノ三秩父事業区 植生調査簿(三)	植生調査簿	1冊	昭和6年	同上
83	関東地方西部	関東西部地方調査区 樹種分布一覧表	樹種分布表	1冊		
84	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 高崎営林署 其ノ一椎氷事業区 生態概況調査簿(一)	生態概況調査表	1冊	昭和6年	森林群叢ごとの層別の植生調査表
85	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 高崎営林署 其ノ二下仁田事業区 D群系 生態概況調査簿(二)	生態概況調査表	1冊	昭和8年	同上
86	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 高崎営林署 其ノ二下仁田事業区 EF群系 生態概況調査簿(三)	生態概況調査表	1冊	昭和8年	同上
87	関東地方西部	東京営林局 関東地方西部調査区 秩父営林署 其ノ三秩父事業区 生態概況調査簿(四)	生態概況調査表	1冊	昭和6年	同上
88	関東地方西部	関東地方西部地方調査区 コドラート図	コドラート図	1冊	昭和6年	国有林名あり、12ページ
89	関東地方西部	関東西部地方調査区 トランセクト圖	トランセクト図	1冊		
90	関東地方西部	関東西部地方調査区 気候圖	気候図	1冊		手書き?
91	関東地方西部	関東地方西部地方調査区 地質図	地質図	1枚		
92	小笠原諸島	小笠原諸島調査区 森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和14年	栗田勲の名前あり
93	小笠原諸島	小笠原諸島 植生図	植生分布図	1枚		小笠原植生図重要

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
94	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 植生調査簿	小笠原営林署 植生調査簿	1冊	昭和10年	林班名、小班名有り
95	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 林況調査簿	小笠原営林署 林況調査表	1冊	昭和10年	本数、径級別樹高別調査簿、林班名、小班名有り
96	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 生態概況調査簿	小笠原営林署 生態概況調査表	1冊	昭和10年	海岸林の植生調査、林班名、小班名有り
97	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 生態概況調査簿	小笠原営林署 生態概況調査表	1冊	昭和10年	山岳林其の一の植生調査、林班名、小班名有り
98	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 生態概況調査簿	小笠原営林署 生態概況調査表	1冊	昭和10年	山岳林其の二の植生調査、林班名、小班名有り
99	小笠原諸島	東京営林局 小笠原諸島調査区 小笠原事業区 表並 総括表	その他	1冊16ページ		
100	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 其の3 矢板事業区 林植生調査書	森 植生調査書	1冊		
101	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区	写真帳	1冊		
102	那須塩原方面	東京営林局 那須塩原方面調査区 其の三 矢板事業区 植生調査簿	矢板営林署 植生調査簿	1冊	昭和7年	群叢D-Fの群集ごとと面積ごととの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
103	那須塩原方面	高原山森林植生分布図(第四圖)	植生分布図	1枚		(房総方面調査区(其之一) 筒森事業区 森林植生分布図と同じ封筒に入っている
104	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区 重要樹種分布図	重要樹種分布図	1冊 大判		
105	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区 重要樹種頻度常現度表	その他	2冊	昭和8年	種別、群集別に出現種の優占度の範囲と頻度を1-5を記述した一覧表
106	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区 重要樹種分布表	重要樹種分布表	1冊	昭和7年	階層別、群集別に出現種の優占度を記述した一覧表
107	那須塩原方面	東京営林局 那須塩原方面調査区 其ノ三 矢板営林署 矢板事業区 林況調査簿	其ノ三 矢板営林署 林況調査表	1冊	昭和7年	群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階層別本数分配表、樹種別径級別高階層別本数分配表
108	那須塩原方面	東京営林局 那須塩原方面調査区 其ノ三 矢板営林署 矢板事業区 生態概況調査簿	其ノ三 矢板営林署 生態概況調査表	1冊	昭和7年	群叢E-Fまでの全層での生育状況調査
109	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区 重要樹種分布図	コードラート図、トランセクト図	1冊12ページ	昭和5年	国有林名あり
110	那須塩原方面	那須塩原方面調査区 矢板事業区 植物区系	植物目録	1冊	昭和7年	科別の種リストに分布域と生活型を記述した一覧表
111	日光鬼怒川方面	日光鬼怒川方面調査区 森林植生分布図	植生分布図	1枚		
112	日光鬼怒川方面	日光鬼怒川調査区 樹種分布図 其三 -61 コナラ-95 コバノトネリコ	重要樹種分布図	40枚ほど		樹種分布図
113	日光鬼怒川方面	日光鬼怒川調査区 樹種分布図 其二 -31 ダケカンバ-60 ヤマナシ	重要樹種分布図	40枚ほど		同上
114	日光鬼怒川方面	東京営林局 日光鬼怒川方面調査区 其ノ一 鬼怒川事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和7年	群叢D-Gの群集ごとと面積ごととの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
115	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 宇都宮事業区 植生調査簿 (二)	植生調査簿	1冊	昭和7年	群叢 D-G の群集ごとと面積ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある
116	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (一) Db アカマツ コナラ クリ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Db4 栃木県河内郡篠井村大字篠井字金山国有林 11 は、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別高階別高階別本数分配表
117	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (九) Fd アオモリトドマツ 群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Fd 栃木県塩谷郡栗山村大字川俣字鬼怒沼国有林 116 い、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別高階別高階別本数分配表
118	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (五) Ea ミズナラ タケモミ 群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Ea 栃木県塩谷郡栗山村大字野門字富士見国有林 120 い、栃木県上都賀郡日光町大字久次良字荒沢国有林 15 ほ 2、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
119	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (三) Dd コナラ クリ クエギ カシワ退化的群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Dd 栃木県塩谷郡三依村大字横川字男鹿山国有林 40 い、栃木県塩谷郡大沢村大字猪ノ倉字倉掛国有林 5 い、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
120	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (四) De ツガ モミ イヌ プナ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	De 栃木県塩谷郡藤原村大字大原字三石国有林 1 ろ、栃木県上都賀郡日光町大字細尾字薬師岳国有林 17 い、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
121	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (七) Ef プナ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Ef 栃木県塩谷郡栗山村大字湯西川字男湯山山国有林 65 に、栃木県塩谷郡栗山村大字川俣字鬼怒沼国有林 65 に群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
122	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (十) 特殊群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	栃木県塩谷郡藤原村大字藤原字立原国有林 8 へ、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
123	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (二) Dc コナラ クリ イヌ プナ ケヤキ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	De 栃木県塩谷郡三俣村大字中三俣字太郎岳国有林 56 へ、栃木県塩谷郡栗山村大字日陰字三本種国有林 94 に、栃木県塩谷郡藤原村ア青あさ藤原字立原国有林 7 か、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
124	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (八) Fa コメツガ タウヒ サウシカンバ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Fa 栃木県塩谷郡栗山村大字川俣字鬼怒沼国有林 116 い、栃木県塩谷郡栗山村大字川俣字鬼怒沼国有林 125 へ群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
125	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 林況調査簿 (六) Ee プナ ネズコ サワラ ヒバ ヒメコマツ群叢	林況調査表	1冊	昭和7年	Ee 栃木県塩谷郡三依村大字横川字男鹿山山国有林 37 い、群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表、樹種別径級別高階別本数分配表
126	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 其二 宇都宮事業区 生態概況調査簿 (三)	生態概況調査表	1冊	昭和7年	群叢 D-G までの全層での生育状況調査
127	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 其一 鬼怒川事業区 生態概況調査簿 (一)	生態概況調査表	1冊	昭和7年	群叢 Da-De までの全層での生育状況調査
128	日光鬼怒川方面	東京營林局 日光鬼怒川方面調査区 今市営林 署 其一 鬼怒川事業区 生態概況調査簿 (二)	生態概況調査表	1冊	昭和7年	群叢 E-G までの全層での生育状況調査
129	八ヶ岳山麓	八ヶ岳山麓 森林植生調査書	植生調査書	1冊		

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
130	房総方面	房総方面調査区(其ノ一) 筒森事業区 森林 植生調査書	植生調査書	1冊		調査年月日や調査者の名前がある。標準値の林班名もあり、調査方法も詳しい記載がある。本調査は山林局編「國有天然林調査方法」に準拠しと記載されている。目次の後に付属書の図、表、写真の記載があり重要
131	房総方面	房総方面地方調査区(其の1) 筒森事業区 写真帳	写真帳	1冊		
132	房総方面	房総方面調査区(其之一) 筒森事業区 森林 植生分布図 全 縮尺二万分之一	植生分布図	1枚		
133	房総方面	房総方面調査区(其之一) 筒森事業区 重要 樹種分布図 五万分之一	重要樹種分布図	1冊 49 ページ		樹種ごとの分布図
134	房総方面	房総方面調査区(其之一) 筒森事業区 重要 樹種分布表	重要樹種分布表	1冊 4 ページ		
135	房総方面	房総方面調査区(其之一) 筒森事業区 トラ ンセクト圖 コドラート圖	トランセクト圖、コドラート圖	1冊 15 ページ	昭和 8 年	
136	房総方面	筒森事業区資料	その他	多数枚		植生調査野帳の原簿そのまま。群叢名と林小班名が記載してある
137	房総方面	東京営林局 房総方面調査区 其ノ一 千葉営 林署 筒森事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和 8 年	群叢ごとの植生概況記載
138	房総方面	東京営林局 房総方面調査区 其ノ一 千葉営 林署 筒森事業区 常現度一覽表	その他	1冊	昭和 8 年	群叢別の種ごとの出現強度
139	房総方面	東京営林局 房総方面調査区 其ノ一 千葉営 林署 筒森事業区 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和 8 年	中身は群叢ごとと樹種別本数、材積表、樹種別径級別本数分配表、樹種別高階別本数分配表
140	房総方面	東京営林局 房総方面調査区 其ノ一 千葉営 林署 筒森事業区 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和 8 年	群叢ごとと樹種別、生育状況表 (f, r, ovr などの記載)
141	房総方面	東京営林局 房総方面調査区 其ノ一 筒森事業区 植物区系	植物目録	1冊		植物名一覧に分布域が記載されている(樺太から台湾までの範囲で)
142	房総方面	筒森事業区 銚子海岸保安林	その他	1袋	昭和 8 年 頃	「銚子海岸林の構造と更新に就いて」という題名の原稿である。すでに公刊されていれば価値は低いが、何も公刊されていなければ保存。原稿多数枚、地図 3 枚?
143	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 森林植生調査書	植生調査書	1冊	昭和 12 年	調査年月日や調査者の名前がある。標準値の林班名もあり、調査方法も詳しい記載がある。本調査は山林局編「國有天然林調査方法」に準拠しと記載されている。目次の後に付属書の図、表の記載があり重要
144	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 寫真帖	写真帳	1冊		
145	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高姫川戸隠事業区 森林 植生分布地図	植生分布図	1枚		大判
146	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其一 妙高事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和 11 年	
147	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其二 姫川事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和 11 年	
148	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其三 戸隠事業区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和 11 年	
149	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高、姫川、戸隠事業区 樹種分布表	重要樹種分布表	1冊	昭和 11 年	樹種分布表

Table 3. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
150	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 妙高姫川戸隠事業区 ID 温帯性低 山地帯植生 モミ・アカマツ・イヌブナ・コナラ・ クリ・クスギ・ケヤキ群系 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和11 年	
151	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 妙高姫川戸隠事業区 II E 温帯性 中山地帯植生 ブナ・ミツナラ・ダケモミ群系 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和11 年	
152	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 妙高姫川戸隠事業区 III F 亜寒帯 性高山地帯植生 コメツガ・シラベ・アオモリ トドマツ・タウヒ・サウシカンハ群系 林況調 査簿	林況調査表	1冊	昭和11 年	
153	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 妙高姫川戸隠事業区 IV 顕著ナル 不安定群叢 並びに臨水型局部植生 林況調査 簿	林況調査表	1冊	昭和11 年	
154	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其一 妙高事業区 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和11 年	
155	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其二 姫川事業区 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和11 年	
156	妙高戸隠山系	東京営林局 妙高戸隠山系調査区 高田大町長 野営林署 其三 戸隠事業区 生態概況調査簿	生態概況調査表	1冊	昭和11 年	
157	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高、姫川、戸隠事業区 コードラート (100 平方米) 計算表	その他	1冊		コードラート図関連
158	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高姫川戸隠事業区 精 密調査 10 米平方コードラート圖	コードラート図	1冊	昭和10 年	国有林名、小班名あり
159	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高姫川戸隠事業区 精 密調査 40 米平方コードラート圖	コードラート図	1冊 15 ページ		林小班名あり
160	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高姫川戸隠事業区 精 密調査 トランセクト圖	トランセクト図	1冊	昭和9年	国有林名、小班名あり
161	妙高戸隠山系	妙高戸隠山系調査区 妙高、姫川、戸隠事業区 植物目録	植物目録	1冊	昭和11 年	
162	全域	中部日本の樹木地理學的研究	その他	1冊	昭和14 年	森林植生調査の報告書として重要だが、樹種の分布のみ。阿武隈山系、日光山地、 関東西部山地、妙高戸隠山系、朝日嶽西部山系の樹種の分布のとりまとめ (枝手 高橋松尾)
163	全域	精密調査圖 其ノ一 トランセクト圖	植生側面図	12枚	昭和3年	青焼きのトランセクト図
164	全域	精密調査圖 其ノ二 コードラート圖	植生側面図	地図 1 枚	昭和3年	精密調査地の地図がありきわめて重要。青焼きのコードラート図 図 12 枚

Table 4. 大阪営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
1	紀州半嶋	紀州半嶋調査区 植生単位群並単位群配置図 主要樹種分布図	重要樹種分布図	1冊		
2	紀州半嶋	紀州半嶋調査区 植物生態概況調査票 樹種別胸高直径階本数分配表 胸高直径樹高階本数分配表 樹種別単木材積表 樹種別材積表	林況調査表	1冊		
3	紀州半嶋	紀州半嶋調査区 コードラート図	コードラート図	1冊		群叢ごとのコードラート図（100m 方形区）、ただし植物が学名の略号ですぐにはわかりません
4	紀州半嶋	紀州半嶋調査区 トランセクト図	トランセクト図	1冊		
5	近畿	近畿植生調査書 大阪営林局	調査説明書	1冊		植生類別表が主体で、調査地の記載や方法の記載はない。写真ページ25枚あり貴重だが、一部切り取りあり。調査者名あり
6	近畿	近畿調査区 群系團並群系配置図 主要樹種分布図	植生分布図、重要樹種分布図	重 1冊		群系ごとの植生図と樹木の分布図（木型スタンプを押した地図）
7	近畿	近畿調査区 植物生態概況調査票 樹種別胸高直径階本数分配表 胸高直径樹高階本数分配表 樹種別単木材積表 樹種別材積表	林況調査表	1冊		
8	近畿	近畿調査区 コードラート図	コードラート図	1冊		
9	近畿	近畿調査区 トランセクト図 大阪営林局	トランセクト図	1冊		青焼きのコピーを冊子とした資料
10	中国西部	中国西部植生調査書 大阪営林局	調査説明書	1冊		植生類別表が主体で、調査地の記載や方法の記載はない。写真ページ13枚あり。調査者名あり
11	中国西部	中国西部調査区 群系團並群系配置図	植生分布図、重要樹種分布図	重 1冊		
12	中国西部	中国西部調査区 植物生態概況調査票 樹種別胸高直径階本数分配表 胸高直径樹高階本数分配表 樹種別単木材積表 樹種別材積表	林況調査表	1冊		
13	中国西部	中国西部調査区 コードラート図	コードラート図	1冊		
14	中国西部	中国西部調査区 トランセクト図	トランセクト図	1冊		
15	中国東部	中国東部 森林植生調査書	調査説明書	1冊		手書き？
16	中国東部	中国東部調査区 群系團並群系配置図 主要樹種分布図 大阪営林局	植生分布図、重要樹種分布図	重 1冊		群系ごとの植生図と樹木の分布図（木型スタンプを押した地図）
17	中国東部	中国東部調査区 植物生態概況調査票 樹種別胸高直径階本数分配表 胸高直径樹高階本数分配表 樹種別単木材積表 樹種別材積表	林況調査表	1冊		
18	中国東部	中国東部調査区 コードラート図	コードラート図	1冊		
19	中国東部	中国東部調査区 トランセクト図 大阪営林局	トランセクト図	1冊		トランセクト調査図（3枚）

Table 5. 高知営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	調査区	調査説明書	昭和四、五年	タイプ	形状	年代	備考
1	宇和島	宇和高調査区 度調査	宇和高調査区	植生調査説明書	昭和四、五年	調査説明書	1冊	昭和5年	植生調査の説明としては網羅的内容。すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もある。重要、土壌の調査もある。四国の森林植生図のNo.12、13に該当する
2	宇和島	宇和高調査区	植生分布圖	植生分布圖					群系ごとの彩色植生図
3	宇和島	宇和高調査区	植生調査簿	植生調査簿			1冊	昭和9年	群叢別の地名と面積が記載されている。備考に対応する写真の番号が書いてあり、写真集があれば各群叢と対応できる。昭和9年3月1日に山林局に提出の附表
4	宇和島	宇和高調査区	樹種分布圖	樹種分布圖			1冊数 10枚	昭和9年	白地図様の多数の地図に樹種ごとの分布が赤や青のスタンプで記されている 昭和9年3月1日に山林局に提出との付箋あり
5	宇和島	宇和高調査区	Ba 植生単位	林況調査表			1冊		胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別胸高直径階本数分配表、樹種別材積表
6	宇和島	宇和高調査区	Bb 植生単位	林況調査表			1冊		同上
7	宇和島	宇和高調査区	Cc 植生単位	林況調査表			1冊		同上
8	宇和島	宇和高調査区	Cd 植生単位	林況調査表			1冊		同上
9	宇和島	宇和高調査区	Ce 植生単位	林況調査表			1冊		同上
10	宇和島	宇和高調査区	Cf 植生単位	林況調査表			1冊		同上
11	宇和島	宇和高調査区	Cg 植生単位	林況調査表			1冊		同上
12	宇和島	宇和高調査区	Eb 植生単位	林況調査表			1冊		同上
13	宇和島	宇和高調査区	Ec 植生単位	林況調査表			1冊		同上
14	宇和島	宇和高調査区	Ed 植生単位	林況調査表			1冊		同上
15	宇和島	宇和高調査区	Ee 植生単位	林況調査表			1冊		同上
16	宇和島	宇和高調査区	Ef 植生単位	林況調査表			1冊		同上
17	宇和島	宇和高調査区	Ba 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		生態概況調査表(写真の番号が書いてあり写真集があれば各群叢と対応できる)
18	宇和島	宇和高調査区	Bb 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
19	宇和島	宇和高調査区	Cc 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
20	宇和島	宇和高調査区	Cd 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
21	宇和島	宇和高調査区	Ce 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
22	宇和島	宇和高調査区	Cf 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
23	宇和島	宇和高調査区	Cg 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
24	宇和島	宇和高調査区	Eb 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
25	宇和島	宇和高調査区	Ec 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
26	宇和島	宇和高調査区	Ed 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
27	宇和島	宇和高調査区	Ee 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
28	宇和島	宇和高調査区	Ef 植生単位	概況調査表		生態概況調査票	1冊		
29	宇和島	宇和高調査区	山林局提出	林相トランセクト		トランセクト図	12枚		濃淡のある水墨画のようなトランセクト図。油紙のような特殊なグラフ用紙に書かれている
30	宇和島	宇和高調査区	土壌調査表	昭和四年度調査		土壌調査表	1冊		各群叢ごとの土壌調査表、含水率、PH、腐植厚など基本調査を網羅している

Table 5. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
31	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 シヒ、アラカシ、ウラシロカシ 群集調査簿	林況調査表	1冊		胸高直径階対樹高階本数分配表
32	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 スギ群集林況調査簿	林況調査表	1冊		同上
33	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 ツガ、トガサワラ群集林況調査簿	林況調査表	1冊		同上
34	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 ヒメユズリハ、ホルトノキ、ツバキ群集調査簿	林況調査表	1冊		同上
35	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 ブナ、ウラジロモミ群集林況調査簿	林況調査表	1冊		同上
36	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 ブナ、モミ、ツガ、スギ群集林況調査簿	林況調査表	1冊		同上
37	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 モミ、ツガ、サカキ、シキミ群集調査簿	林況調査表	1冊		同上
38	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 モミ、ツガ、シヒ群集調査簿	林況調査表	1冊		同上
39	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 モミ、ツガ、スギ、ヒノキ、シヒ群集調査簿	林況調査表	1冊		同上
40	魚梁瀬	魚梁瀬調査区 モミ、ツガ、スギ、サカキ、シキミ群集調査簿	林況調査表	1冊		同上
41	魚梁瀬	魚梁瀬 森林樹木位置図	コドレート図	15枚		方形区のサイズが不明
42	魚梁瀬	魚梁瀬 森林トラセクト図	トラセクト図	9枚		森林断面図は価値あり
43	魚梁瀬	魚梁瀬 千本山スギ保護林第1区調査区(第2休場上方)	林況調査表	1冊		材積調査表(樹種、直径、樹高、本数)
44	魚梁瀬	魚梁瀬高松調査区 野帳1冊	その他	1冊	昭和9年	昭和九年度魚梁瀬高松方面植生調査簿 野帳(牧野富太郎の手紙文と署名があるが、写しかもしれない)
45	剣山	剣山調査区 野帳1冊	その他	1冊	昭和8年	剣山調査区昭和8年度野帳
46	剣山	剣山調査区 ツガ、トガサハラ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山名あり
47	剣山	剣山調査区 ブナ、ダケカンバ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
48	剣山	剣山調査区 モミ、ツガ、ブナ、シキミ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
49	剣山	剣山調査区 クロマツ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
50	剣山	剣山調査区 シラベ、ダケカンバ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
51	剣山	剣山調査区 ブナ、ウラジロモミ群叢 林況調査簿	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上

Table 5. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
52	剣山	剣山調査区 ブナ、ツガ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
53	剣山	剣山調査区 モミ、ツガ、サカキ、シキミ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
54	剣山	剣山調査区 モミ、ツガ、スギ、サカキ、シキミ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
55	剣山	剣山調査区 モミ、ツガ、ヒノキ、サカキ、シキミ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
56	剣山	剣山調査区 コドラート調査図	コドラート図	多数	昭和6年 前後	祖谷山、桶谷山、猿押山、安野山でのコドラート査。樹木位置と各方形区のコドラート内の植生が記載されているグラフ用紙
57	剣山	昭和十五年六月六日附 書第一〇二号添付ス 高知営林局 剣山コドラート調査図	コドラート図	5枚	昭和6年 前後	芸術的コドラート図。猿押山、杉熊山、祖谷山2枚、大際平瀬山、安野山
58	高松	高松調査区 アカマツ、コナラ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、地名あり
59	高松	高松調査区 アカマツ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
60	高松	高松調査区 クロマツ、アカマツ、ネズミサシ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
61	高松	高松調査区 モミ、アカマツ群叢	林況調査簿	林況調査表	昭和6年 前後	同上
62	高松	高松調査区 コドラート調査図	コドラート図	10枚	昭和6年 前後	焼尾山のトランセクト図1枚とコドラート図4、5枚。大串山のコドラート図4、5枚
63	高松	高松調査区 大尾駒山国吉山クオドラート	トランセクト図、コドラート図	1袋	昭和6年 前後	大尾駒山国吉山のトランセクト図2枚とコドラート図10枚
64	四国全体	高知営林局管内 国有林植生調査報告 高知営 林局叢書No.8 (昭和14年10月)	その他	1冊	昭和14年	河田の天然林調査法に従った結果のとりまとめ。写真やトランセクト図がある。表紙に Hatai K. Sept 1951 の署名あり
65	四国全体	四国全域の森林植生図	植生分布図	15枚	昭和11年?	5万分の一地形図に彩色したもの。43枚分を2枚から4枚つないで作成している。封筒裏に群叢のカラー凡例あり；Aa-Pb まで
66	四国全体	クオドラート調査表	コドラート図	25枚ほど	昭和7年 前後	コドラート図、市ノ又、三崎山などの山岳別に枚別枚閉じてある。一部にトランセクト日が赤線以示してある
67	四国全体	高知営林局管内 気象調査表	平均気温 気候表	1冊	昭和7年 前後	四国各地の平均気温の表が多数
68	四国全体	高知営林局管内図	その他	1枚	昭和12年	管内図、当時の国有林名を見るのに便利
69	石鎚	石鎚調査区 Cd 植生単位 (アカマツ群叢)	概況調査簿	概況調査票	昭和6年	植生調査表1冊
70	石鎚	石鎚調査区 Dd 植生単位 (モミ・ツガ・サカキ・シキミ群叢)	概況調査簿	概況調査票	昭和6年	同上

Table 5. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
71	石鎚	石鎚調査区 Ea 植生単位 (ブナ・ウラジロモミ群叢) 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和6年	同上
72	石鎚	石鎚調査区 Eb 植生単位 (ブナ・ツガ群叢) 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和6年	同上
73	石鎚	石鎚調査区 Fa 植生単位 (シラベ、ダケカンバ群叢) 概況調査簿	生態概況調査票	1冊		概況調査簿
74	石鎚	石鎚調査区 Fb 植生単位 (ブナ・ウラジロモミ・ダケカンバ群叢) 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和6年	同上
75	石鎚	石鎚調査区 植生調査簿 昭和六年度調査	生態概況調査票	1冊	昭和6年	群集の記載、町村名はあり
76	石鎚	石鎚調査区 樹種分布図	重要樹種分布図	1冊	昭和6年	地図数10枚。樹種ごとの分布図、スタンプのようなもので地図に印を付けている
77	石鎚	石鎚調査区 Cd 植生単位 (アカマツ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Da1-Da2。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、標準地2箇所分、0.17ha、0.33ha
78	石鎚	石鎚調査区 Dd 植生単位 (モミ・ツガ・サカキ・シキミ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Eb1-Eb7。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、標準地数箇所分、0.67ha:自念子山、0.67ha:安井山、1.17ha:面河山、0.97ha:坂瀬山
79	石鎚	石鎚調査区 Ea 植生単位 (ブナ・ウラジロモミ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Fa1。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山の名前あり
80	石鎚	石鎚調査区 Eb 植生単位 (ブナ・ツガ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Fb1。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山の名前あり
81	石鎚	石鎚調査区 Fa 植生単位 (シラベ、ダケカンバ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Ga1。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山の名前あり
82	石鎚	石鎚調査区 Fb 植生単位 (ブナ・ダケカンバ群叢) 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	中身は Gb1。胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山の名前あり
83	石鎚	石鎚山調査区 クオードラート調査表	コドラート図	25枚ほど		コドラート図、一部にトランセクト日が赤線以示してある
84	足摺岬	植生調査説明書	調査説明書	1冊	昭和5年	
85	足摺岬	立地条件調査説明書	調査説明書	1冊	昭和4年	気象、土壌、地質など立地条件を調査した報告書
86	足摺岬	植生調査区調査報告書	調査説明書	1冊		目次のみ
87	足摺岬	植生調査区 植生単位群単位分布図	植生分布図	6枚		
88	足摺岬	植生調査区 植生調査簿	植生調査簿	1冊	昭和2年	群叢 Aa-D-Eb の面積ごとの各階層ごとの優占種の記載、面積がすべて記載してある。精密調査区の場所の記載ありが住所までで詳しい林班名ではない
89	足摺岬	植生調査区 樹種分布図	重要樹種分布図	1冊	昭和9年 提出	樹種ごとの分布図、スタンプのようなもので地図に印を付けている
90	足摺岬	植生調査区 Aa 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	胸高直径階対樹高階本数分配表、樹種別材積表、山名なし
91	足摺岬	植生調査区 Ca 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	同上
92	足摺岬	植生調査区 Cb 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年 前後	同上

Table 5. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
93	足摺岬	足摺調査区 Cc 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
94	足摺岬	足摺調査区 Ea 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
95	足摺岬	足摺調査区 Eb 植生単位 植生調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
96	足摺岬	足摺調査区 Aa 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
97	足摺岬	足摺調査区 Ca 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
98	足摺岬	足摺調査区 Cb 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
99	足摺岬	足摺調査区 Cc 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
100	足摺岬	足摺調査区 Ea 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
101	足摺岬	足摺調査区 Eb 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和2年	
102	足摺岬	足摺調査区 土壤調査表 昭和3年度調査	土壤調査表	1冊	昭和6年前後	植生単位ごとの土壤調査表。含水率、礫、色、有機物百分率、腐植、層厚などの記載一覧表
103	大野ヶ原	大野ヶ原 植生調査説明書	調査説明書	2冊	昭和5年	2冊同じもの
104	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 植生調査簿 昭和5年度調査	植生調査簿	1冊	昭和5年	群集の記載、町村名はあり
105	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Ce 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	植生調査表1冊
106	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Ee 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
107	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Eg 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
108	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Eh 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
109	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fa 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
110	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fb 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
111	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fc 植生単位 概況調査簿	生態概況調査票	1冊	昭和5年	同上
112	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 樹種分布図	重要樹種分布図	1冊	昭和9年提出	「昭和九年三月一日附 計第二號 植生調査書類提出ノ件添付モノ 高知 營林局 農林省 山林局御中」、地図100枚以上。樹種ごとの分布図、スタンプのようなもので地図に印を付けている
113	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Ce 植生単位 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	胸高直径階對樹高階本數分配表、樹種別材積表、山の名前なし
114	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Ec 植生単位 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
115	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Ee 植生単位 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
116	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Eg 植生単位 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
117	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Eh 植生単位 林況調査表	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上

Table 5. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
118	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fa 植生単位	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
119	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fa 植生単位	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
120	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fb 植生単位	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
121	大野ヶ原	大野ヶ原調査区 Fc 植生単位	林況調査表	1冊	昭和6年前後	同上
122	白髪山	白髪山調査区 アカマツ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		
123	白髪山	白髪山調査区 シヒ、アラカシ、ウラジロガシ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		
124	白髪山	白髪山調査区 シラベ、ダケカンバ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		
125	白髪山	白髪山調査区 ブナ、ウラジロモミ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		
126	白髪山	白髪山調査区 重要樹種分布図	重要樹種分布図	1冊		白地図様の多数の地図に樹種ごとの分布が赤や青のスタンプで記されている
127	白髪山	白髪山調査区 Cb 植生単位	林況調査表	1冊		胸高直径階別樹高階本数分配表、樹種別胸高直径階本数分配表、樹種別材積表(表書きの植生単位アルファベットと中身のアルファベットが違う場合あり)
128	白髪山	白髪山調査区 Dd 植生単位	林況調査表	1冊		同上
129	白髪山	白髪山調査区 Dg 植生単位	林況調査表	1冊		同上
130	白髪山	白髪山調査区 Ea 植生単位	林況調査表	1冊		同上
131	白髪山	白髪山調査区 Eb 植生単位	林況調査表	1冊		同上
132	白髪山	白髪山調査区 Eb 植生単位	林況調査表	1冊		同上
133	白髪山	白髪山調査区 Ec 植生単位	林況調査表	1冊		同上
134	白髪山	白髪山調査区 Ga 植生単位	林況調査表	1冊		同上
135	白髪山	白髪山調査区 ヒノキ、ヒメコマツ、コマツガ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		Fd1 ヒノキ、ヒメコマツ、コマツガ群叢の生態概況調査
136	白髪山	白髪山調査区 ブナ、ツガ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		Fb1 ブナ、ツガ群叢の生態概況調査簿
137	白髪山	白髪山調査区 ブナ、モミ、ツガ、シキミ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		Eh1 ブナ、モミ、ツガ、シキミ群叢の生態概況調査簿
138	白髪山	白髪山調査区 モミ、ツガ、サカキ、シキミ群叢概況調査簿	生態概況調査票	1冊		Eb1 モミ、ツガ、サカキ、シキミ群叢の生態概況調査
139	白髪山	白髪山調査区 クオードラート調査表	コードラート図	約25枚		コードラート図

Table 6. 熊本営林局管内の天然林調査報告書

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
1	対島地方、五島地方	第一圖 対島地方 五島地方 植生分布図	植生分布図	2 枚		群系ごとに色分けされた植生図
2	対島地方、五島地方	対島地方 五島地方 生態概況調査表	生態概況調査票	多数枚		群系ごとの種リストと生育状況の記号の表、国有林名あり。例：豆藤竜良山国有林 33 い。対島、五島の他に第五表として、筑紫山系西半部地方、有明沿海地方、九州山系北部地方のすべての群系ごとの生態概況調査票がある
3	西表	西表国有林調査報告書	調査説明書	1 冊	昭和 11 年	実況並び将来の経営方針
4	奄美大島徳之島地方	大島徳之島地方 植生調査説明書	調査説明書	1 冊		歴史資料としては重要だが、中身は日向山脈 植生調査説明書ほど充実していない
5	奄美大島徳之島地方	八、奄美大島徳之島地方 植生分布図	植生分布図	4 枚		群系ごとに色分けされた植生図
6	奄美大島徳之島地方	七、奄美大島徳之島地方 植生概況調査票	植生調査簿	多数		群系ごとや数カ所の植生概況調査票
7	屋久島 種子島	昭和 11 年度 屋久島種子島 植生調査説明書	調査説明書	1 冊	昭和 11 年	
8	屋久島 種子島	屋久島 種子島 植生分布図	植生分布図	2 枚		群系ごとに色分けされた植生図
9	屋久島 種子島	屋久島 種子島 生態概況調査	生態概況調査票	多数		屋久島生態概況調査一覧表 (32 箇所)；国有林名、標高、群系の記載あり、同じく種子島生態概況調査一覧表 (5 箇所)
10	九州山系中部 地方	昭和六・七年度 九州山系中部地方 植生調査説明書	調査説明書	1 冊	昭和 7 年	植生調査の説明としては網羅的内容；すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もあるので重要
11	九州山系中部 地方	第一圖 九州山系中部地方 植生分布図	植生分布図	3 枚		群系ごとに色分けされた植生図
12	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 重要樹種分布一覧表	重要樹種分布図	1 枚		重要樹種の群叢別の優占度の一覧図
13	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Aa 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表、第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
14	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Ab1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
15	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Ab2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
16	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Ac1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
17	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ac2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
18	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ad1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
19	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ad2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
20	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ba1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
21	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ba2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
22	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Ca 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
23	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	C(b) 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
24	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cb1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
25	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cb2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
26	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cc1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
27	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cc2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
28	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cd1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上
29	九州山系中部 地方	九州山系中部地方	Cd2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
30	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Cd3 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
31	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Ce 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
32	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Da 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
33	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Db 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
34	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Dc 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
35	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Dd1 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
36	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 Dd2 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
37	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 De 第二表一第七図	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図 写真帳	表 4、 図 2 枚	同上	封筒のみ、中身なし
38	九州山系中部 地方	九州山系中部地方 植生写真 31 枚	写真帳			
39	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 植生調査説明書	調査説明書	1 冊		植生調査の説明としては網羅的内容：すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もあるので重要
40	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 第一圖 九州山系南部地方 植生分布圖	植生分布図	4 枚		群系ごとに色分けされた植生図
41	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 A(a) 第二表一第七圖	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表、第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
42	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Aa1 第二表一第七圖	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
43	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Aa2	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
44	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Aa3	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
45	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Aa4	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
46	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ab	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
47	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ac1	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
48	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ac2	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
49	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ad1	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
50	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ad2	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
51	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ae	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
52	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Af	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
53	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ag	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
54	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ah	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表5、 図2枚	同上、第五表	概況調査用紙を含む
55	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ai1	第二表-第七圖 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚	同上、トランセクト図なし	

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
56	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ai2 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
57	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ba1 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
58	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ba2 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
59	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ba3 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
60	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ca 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
61	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Cb 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
62	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Cc 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
63	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Da 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
64	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Db 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
65	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ea1 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
66	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ea2 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上
67	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Ea3 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
68	九州山系南部 地方	九州山系南部地方 Eb 第二表-第七圖	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚	同上	同上
69	九州山系北部 地方	九州山系北部地方 植生調査説明書	調査説明書	1冊	昭和12 年	
70	九州山系北部 地方	九州山系北部地方 植生写真	写真帳	1冊		
71	九州山系北部 地方	九州山系北部 筑紫山脈東半部 植生分布図	植生分布図	2枚		群系ごとに色分けされた植生図
72	九州山系北部 地方	第八表 九州山系北部地方 重要樹種分布表二 葉	重要樹種分布図	2枚		其の一：Aa-Db4、其の二：Dc1-Ib
73	九州山系北部 地方	Aa 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		Aa 樹種別材積表、第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図、樹種別別径級別本数分配表、径階別高階別本数分配表。トランセクト図は原図かもしれない、貴重
74	九州山系北部 地方	Ab 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
75	九州山系北部 地方	Ac 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
76	九州山系北部 地方	Ad 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
77	九州山系北部 地方	Ba1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
78	九州山系北部 地方	Ba2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
79	九州山系北部 地方	Ba3 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
80	九州山系北部 地方	Bb 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上
81	九州山系北部 地方	Bc 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
82	九州山系北部 地方	Bd 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
83	九州山系北部 地方	Be 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
84	九州山系北部 地方	Ca1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
85	九州山系北部 地方	Ca2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
86	九州山系北部 地方	Ca3 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
87	九州山系北部 地方	Cb1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
88	九州山系北部 地方	Cb2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
89	九州山系北部 地方	Cb3 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
90	九州山系北部 地方	Cc 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
91	九州山系北部 地方	Da 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
92	九州山系北部 地方	Db1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上
93	九州山系北部 地方	Db2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
94	九州山系北部 地方	Db3 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
95	九州山系北部 地方	Db4 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
96	九州山系北部 地方	Dc1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
97	九州山系北部 地方	Dc2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
98	九州山系北部 地方	Dc3 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
99	九州山系北部 地方	Dd1 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
100	九州山系北部 地方	Dd2 九州山系北部地方	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 4、 図 2 枚	同上	
101	九州山系北部 地方	Ia 九州山系北部地方 毎木材積調査ヲ除ク	林況調査表、コ ドロー図、ト ランセクト図	表 1、 図 1	第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、 第七図 トランセクト原図、第二表一第四表がない	
102	九州山系北部 地方	De 九州山系北部地方 概況調査その三	生態概況調査票		中身なし	
103	九州山系北部 地方	Ib 九州山系北部地方 概況調査の三	生態概況調査票		中身なし	
104	高隈山	昭和 4 年度調査 高隈山植生調査説明書 熊本 営林局	調査説明書	1 冊	昭和 7 年	植生調査の説明としては網羅的内容；すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もあるのが重要
105	高隈山	No.1. 高隈山 植生分布圖	植生分布図	1 枚		群系ごとに色分けされた植生図
106	高隈山	高隈山 No.8 重要樹種本数分布一覽表	重要樹種分布表	1 枚		
107	高隈山	高隈山 No.2 樹種別径階別本数分配表	林況調査表	多数		Aa-Ca までの 1 セット
108	高隈山	高隈山 No.3 径階別高階別本数分配表 I a1, a2, b	林況調査表	多数		径階別高階別本数分配表
109	高隈山	高隈山 No.3 径階別高階別本数分配表 c 1 c 2	林況調査表	多数		同上
110	高隈山	高隈山 No.3 径階別高階別本数分配表 c 3 c 4	林況調査表	多数		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
111	高隈山	高隈山 No.3	径階別高階別本数分配表 A II. 林況調査表	多数		同上
112	高隈山	高隈山 No.3	径階別高階別本数分配表 A II. 林況調査表	多数		同上
113	高隈山	高隈山 No.3	径階別高階別本数分配表 Ca 林況調査表	多数		同上
114	高隈山	高隈山 No.4	径階別高階別本数分配表 BI 林況調査表	多数		同上
115	高隈山	高隈山 No.4	樹種別径階別材積表並重要樹種材積分布表	多数		樹種別径階別材積表が Aa-Ca1 セット、重要樹種材積分布表が 1 枚
116	高隈山	高隈山 No.3	径階別高階別本数分配表 BII 林況調査表	多数		径階別高階別本数分配表
117	高隈山	高隈山 No.5	生態概況調査	多数		生態概況調査票 Aa-Ca
118	高隈山	高隈山 No.6	コドラート調査表	数枚		コドラート図 Aa-Ca
119	高隈山	高隈山 No.7	トランセクト図	25 枚		トランセクト図 Aa-Ca
120	高隈山	高隈山 No.9	植物目録	1 冊		
121	筑紫山脈西半部	有明沿海地方及筑紫山脈西半部地方 五島地方 植生調査説明書	対馬地方 植生調査説明書	1 冊	昭和 10 年	
122	筑紫山脈西半部	第一圖 有明沿海地方 筑紫山脈西半部地方 植生分布圖 (四葉)	植生分布図	4 枚		群系ごとに色分けされた植生図
123	筑紫山脈西半部	No. 1. 筑紫山脈西半部 (β) Ab 第二表一第七図	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表 4、図 2 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；第 6 表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
124	筑紫山脈西半部	No. 1. 筑紫山脈西半部 (β) Ac1 第二表一第七図	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表 4、図 1 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；平戸 中野安満岳 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
125	筑紫山脈西半部	No. 1. 筑紫山脈西半部 (β) Ac2 第二表一第七図	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表 4、図 1 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；伊万里大平 8 い 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
126	筑紫山脈西半部	No. 1. 筑紫山脈西半部 (β) Ac3 第二表一第七図	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表 4、図 1 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；梅野金立山 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図；式雄？岳 16 は？表と林班名が違う？
127	筑紫山脈西半部	No. 1. 筑紫山脈西半部 (β) Ac4 第二表一第七図	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表 4、図 1 枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；平戸国見山 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図；梅野金立山 59 に、表と林班名が違う？

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
128	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ad 第七図	第二表—第一 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；右坂 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
129	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ae1 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；高良山 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
130	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ae2 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；伊万里 大平 11い 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
131	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ae3 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；春日金立山 58ほ 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
132	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ae4 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；遠目 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
133	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Af 第七図	第二表—第一 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；天水 64ち 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
134	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ba1 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；萱瀬 2ほ 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
135	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ba2 第七図	第二表— 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図1枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；本城 20ほ、第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
136	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) Ca 第七図	第二表—第一 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表、第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
137	筑紫山脈西半部	No.1. 筑紫山脈西半部 (β) C'a 第七図	第二表—第一 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	表4、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表；萱瀬 1い 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
138	筑紫山脈東半部地方	昭和十一年度 筑紫山脈東半部地方 植生調査 説明書	植生調査 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	1冊	昭和11年	植生調査の説明としては網羅的内容；すべての標準地の林班名一覽あり、図表の説明もあるのが重要
139	筑紫山脈東半部地方	第一圖 筑紫山脈東半部地方 植生分布圖 枚入	参 林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	3枚		植生図
140	筑紫山脈東半部地方	第八圖 筑紫山脈東半部地方 重要樹種分布表	林況調査表、コ ドラート図、ト ランセクト図	2枚		棒グラフ状の群叢別の分布図

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
141	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 A1a	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚 になったもの、第七図 トランセクト原図、 同上
142	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Aa	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
143	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ab1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
144	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ab2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
145	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ab3	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
146	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ab4	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
147	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ac1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
148	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ac2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
149	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ac3	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
150	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ab5	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
151	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ba	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
152	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1b	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
153	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1c1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
154	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B'c2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
155	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B'd3	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
156	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1a	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
157	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1d1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
158	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1d4	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
159	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 B1e	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
160	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Bb1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
161	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Bb2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
162	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Bc	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
163	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Bd	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
164	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Bd2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
165	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 C'a1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上
166	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 C'a2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚		同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
167	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ca3	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
168	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Cb	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
169	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ca"	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
170	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ca1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
171	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ca2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
172	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Cb1	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
173	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Cb2	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
174	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Cb3	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
175	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Cc	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
176	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Da	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
177	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Db	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上
178	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Dc	林況調査表、コ ドロート図、ト ランセクト図	表数十 枚、図 2枚	同上	同上

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
179	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Dd	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表数十枚、図2枚	同上	同上
180	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 De	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表数十枚、図2枚	同上	同上
181	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ea1	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表数十枚、図2枚	同上	同上
182	筑紫山脈東半部地方	筑紫山脈東半部地方 Ea2	林況調査表、コドラート図、トランセクト図	表数十枚、図2枚	同上	同上
183	南隅半島	昭和5年度調査 南隅半島植生調査説明書 熊本営林局	調査説明書	1冊	昭和5年	植生調査の説明としては網羅的内容：すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もあるので重要
184	南隅半島	No.1 南隅半島 植生分布図	植生分布図	1枚		群系ごとに色分けされた植生図
185	南隅半島	No.8 重要樹種分布図表	重要樹種分布表	1冊		南隅半島重要樹種本数分布一覧表
186	南隅半島	No.3 径階別高階別本数分配表 Aa1-Aa3	林況調査表	多数枚		径階別高階別本数分配表。樹種別なので各植生単位で相当な枚数あり
187	南隅半島	No.3 Aa4-Aa6	林況調査表	多数枚	同上	同上
188	南隅半島	No.3 Aa7-Aa9	林況調査表	多数枚	同上	同上
189	南隅半島	No.3 Aa10-Aa11	林況調査表	多数枚	同上	同上
190	南隅半島	No.3 Ab-Ac	林況調査表	多数枚	同上	同上
191	南隅半島	No.3 Ba-Bc	林況調査表	多数枚	同上	同上
192	南隅半島	No.3 Da1-Da3	林況調査表	多数枚	同上	同上
193	南隅半島	No.3 径階別高階別本数分配表 Ca	林況調査表	多数枚	同上	同上
194	南隅半島	No.2 樹種別径階別本数分配表	林況調査表	表22枚		樹種別径階別本数分配表原簿樹種別径階別本数分配表原簿。標準地面積の記載あり、0.3-1.2ha
195	南隅半島	No.4 樹種別径階別材積表 並 重要樹種材積分布表	林況調査表	図1枚、表22枚		南隅半島 樹種別材積表原簿と重要樹種材積分布表
196	南隅半島	No.6 コドラート調査表	コドラート図	22枚		10 m コドラートに樹木位置と植物名を記載した原簿の1 / 20 縮尺、Aa1 から Da3 まで植生単位別の図表。生育階別本数表付
197	南隅半島	No.7 トランセクト及樹冠投影図	トランセクト図	42枚		トランセクト及樹冠投影図
198	南隅半島	No.9 植物目録	植物目録	1冊		植物目録
199	日向山脈	昭和7年度調査 日向山脈 植生調査説明書 熊本営林局	調査説明書	1冊	昭和7年	植生調査の説明としては網羅的内容：すべての標準地の林班名一覧あり、図表の説明もあるので重要
200	日向山脈	No.1 日向山脈 植生分布図	植生分布図	3枚		群系ごとに色分けされた植生図
201	日向山脈	No.8 日向山脈 重要樹種分布図表	重要樹種分布図	1枚		すべての植生単位での樹種別の優先度図、棒グラフの改良版の様子

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
202	日向山脈	No.2 日向山脈 樹種別径階別本数分配表	林況調査表	多数		これは日向山脈の分
203	日向山脈	No.3 Aa1-Aa3 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		胸高直径階對樹高階本数分配表
204	日向山脈	No.3 Aa4-Aa6 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
205	日向山脈	No.3 A(e)-Ab2 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
206	日向山脈	No.3 Ab3-Ab5 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
207	日向山脈	No.3 Ac-Ae 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
208	日向山脈	No.3 Af-Ai 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
209	日向山脈	No.3 Ba-Bb-Bc 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
210	日向山脈	No.3 Ca1-3-Cb 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
211	日向山脈	No.3 Da-Ea-Eb-Ga-Gb 日向山脈 径階別高階別本数分配表	林況調査表	数十枚		同上
212	日向山脈	No.6 日向山脈 コドロート調査	コドロート調査	数十枚		コドロート調査図表、樹木位置図と植生リストが記載されている
213	日向山脈	No.4 日向山脈 樹種別径階別材積表	林況調査表	数十枚		樹種別径階別材積表
214	日向山脈	No.9 日向山脈 植物目録	植物目録	数枚		植物目録
215	霧島山	霧島山 植生調査説明書	調査説明書	1冊		
216	霧島山	No.1. 霧島山 植生分布図	植生分布図	1枚		群系ごとに色分けされた植生図
217	霧島山	霧島山 No.7 頻度 (Frequent) 常現度 (Konstant) 調査	その他	多数枚		各植生単位で1平米方形区を100個調査。頻度及び常現度表 調査原表 植生単位 Ab-Cc
218	霧島山	霧島山 No.8 被覆度 (Deckungsgrad) 調査	その他	多数枚		コドロート調査区被覆度表 植生単位 Ab-Cc
219	霧島山	霧島山 No.2 樹種別、径階別、本数分配表	林況調査表	多数枚		
220	霧島山	霧島山 No.3 (Ab - (Ac) 径階別高階別 本数分配表	林況調査表	2冊		樹種ごと。植生単位 Ab, (Ac) 径階別高階別本数分配表
221	霧島山	霧島山 No.4 樹種別材積表 並 重要樹種材積分布表	林況調査表	図1枚、表3冊		植生単位 Ab-Ah4, Ba - (Be2), Cb - Cc 樹種別材積表、霧島山重要樹種材積分布一覽表
222	霧島山	霧島山 No.3 (Ad - Ag) 径階別高階別 本数分配表	林況調査表	3冊		植生単位 Ad, Af, Ag 径階別高階別本数分配表
223	霧島山	霧島山 No.3 (Ah1-Ah4) 径階別高階別 本数分配表	林況調査表	4冊		植生単位 Ah 径階別高階別本数分配表

Table 6. (つづき)

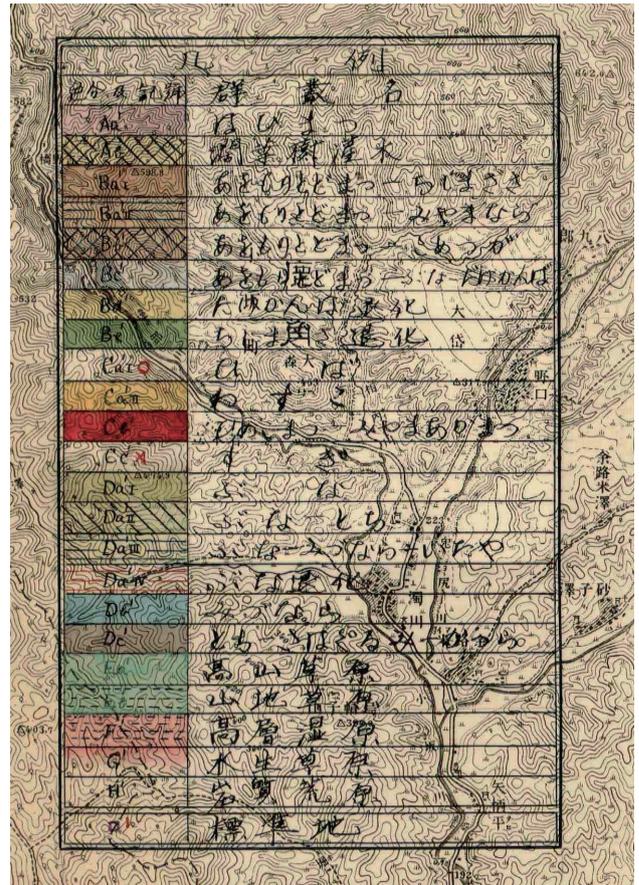
番号	地域名	資料名	タイプ	形状	年代	備考
224	霧島山	霧島山 No.3 配表	径級別高階別 本数分	林況調査表	4冊	植生単位 Ba, Bb, Bc, Bd 径級別高階別本数分配表
225	霧島山	霧島山 No.3 分配表	径級別高階別 本数	林況調査表	3冊	植生単位 Be1, Be2(Be2) 径級別高階別本数分配表
226	霧島山	霧島山 No.3 配表	径級別高階別 本数分	林況調査表	2冊	植生単位 Cb- Cc 径級別高階別本数分配表
227	霧島山	霧島山 No.6	コドラート調査 (A 群系)	コドラート図	多数枚	個体位置図と植生調査が一枚に示されている。コドラート調査原表 植生単位 Ab- Ah4
228	霧島山	霧島山 No.6	コドラート調査 (B 群系)	コドラート図	多数枚	コドラート調査原表 植生単位 Ba-(Be2)
229	霧島山	霧島山 No.6	コドラート調査 (C 群系)	コドラート図	多数枚	コドラート調査原表 植生単位 Cb-Cc
230	霧島山	霧島山 No.9 (トランセクト図)	Line transect and its profile charts	トランセクト図	多数枚	
231	霧島山	霧島山 No.10	重要樹種分布図	重要樹種分布図	多数枚	
232	霧島山	霧島山 No.11	植物目録	植物目録	1冊	
233	有明沿海地方	有明沿海地方及筑紫山脈西半部地方 五島地方 植生調査説明書	対馬地方	調査説明書	1冊	昭和10年
234	有明沿海地方	第一圖 有明沿海地方 植生分布図 (四葉)	筑紫山脈西半部地方	植生分布図	4枚	群系ごとに色分けされた植生図
235	有明沿海地方	有明沿海地方 分布図 第八圖	重要樹種	重要樹種分布図	1枚	森林群集ごとの樹種の優占度を一覧表にした図
236	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Aa1	第二表一第七圖	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図: 国有林名あり: うすき山71と(薄木山?)
237	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Aa2	第二表一第七圖	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図: 国有林名あり: 八代 官民山57(か)
238	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Aa3	第二表一第七圖	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表なし、第七図 トランセクト原図: 島原民地と記載あり、
239	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ac	第二表一第七圖 西郷温 泉岳	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表: 西郷温泉 岳と記載あり、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木 位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
240	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ad1	第二表一第七圖	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表: 熊野岳9と、 第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調 査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
241	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ad2	第二表一第七圖	林況調査表	表4枚、 図2枚	第二表 径級別高階別本数分配表、第三表 樹種別径級別本数分配表: 平山44は、 第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調 査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図: 金峯山44は?

Table 6. (つづき)

番号	地域名	資料名	高原	タイプ	形状	年代	備考
242	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ae1 第二表一第七圖 温泉		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
243	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ae2 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表：亀割60ぬ、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図：伊万里大平国有林11へ
244	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Af 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表：椎山29へ、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
245	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ag 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表：金峯山37に 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図：金峯山37に、金峯山44に
246	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ah 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表：杉谷54に、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
247	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) C ^b 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表：小浜温泉63か 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
248	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Cb 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図：安中44ほ
249	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Da 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表、第四表 樹種別材積表：小浜温泉45い 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図：小浜45い
250	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Ea 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表：三角嶽66に、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
251	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Eb 第二表一第七圖		林況調査表	表4枚、 図2枚		第二表 径階別高階別本数分配表、第三表 樹種別径階別本数分配表：飛岳70は、第四表 樹種別材積表 第六表 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、第七図 トランセクト原図
252	有明沿海地方	有明沿海地方 (α) Fa 第六表のみ		コドロート図	1枚		第六表のみ 生育階別本数表と方形区の樹木位置図と植生調査が一枚になったもの、他は失われた？
253	有明沿海地方	有明沿海地方 筑紫山脈西半部地方 (三十五葉) 及び植物目録	植生寫真録	写真帳、植物目録	中身無し		中身がどこかにあるのか、失われたのかは不明
254	全域	熊本營林局管内図	その他	その他	10枚	昭和3年1月調製	管内図、当時の国有林名を見るのに便利

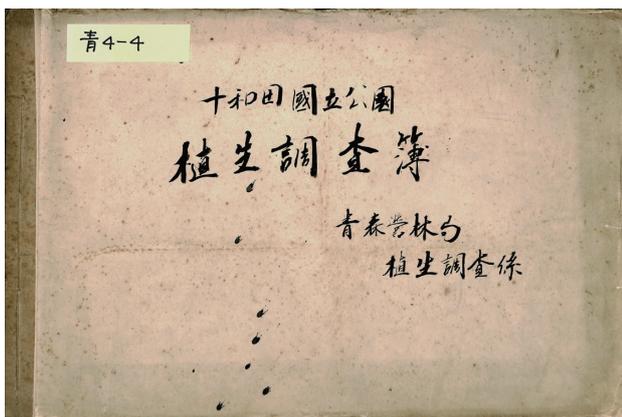


(a) 全体図



(b) 凡例部分拡大

Photo 1 青森営林局十和田国立公園地域の森林植生図



(a) 表紙

(b) 中身

Photo 2 青森営林局十和田国立公園地域の植生調査簿

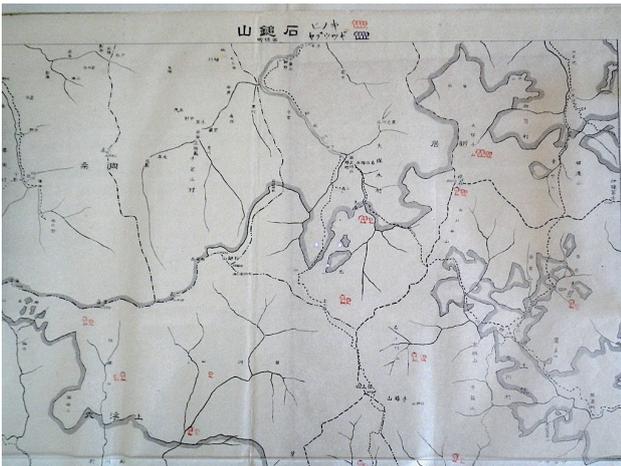
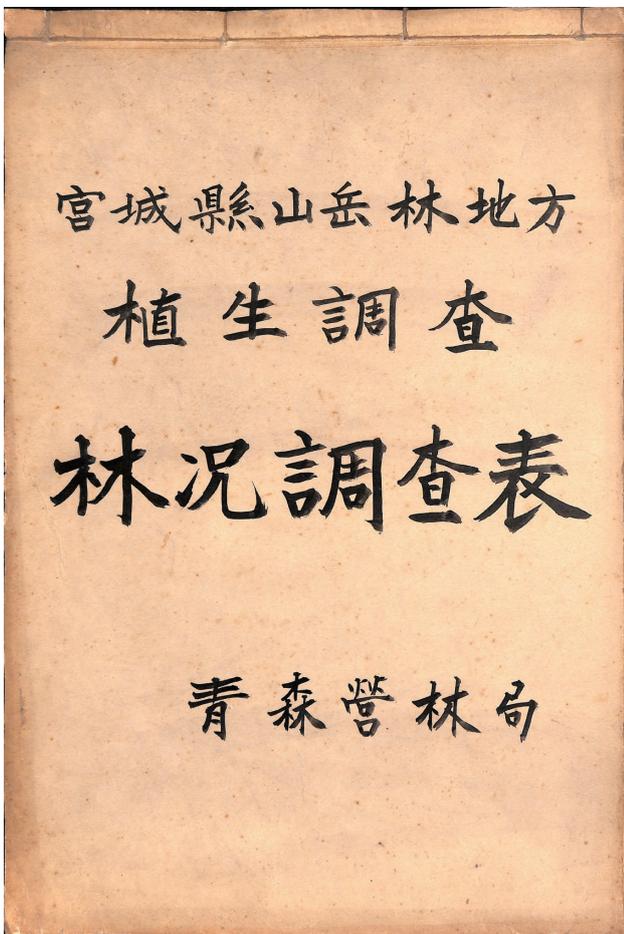


Photo 3-1 高知営林局石鎚山の重要樹種分布図



Photo 3-2 熊本営林局九州山系北部地方の重要樹種分布表

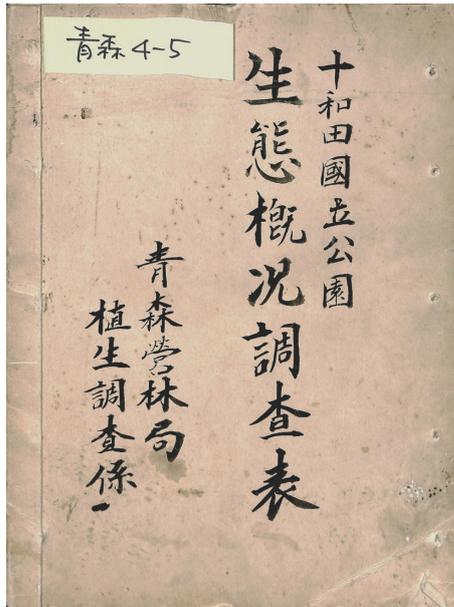


(a) 表紙

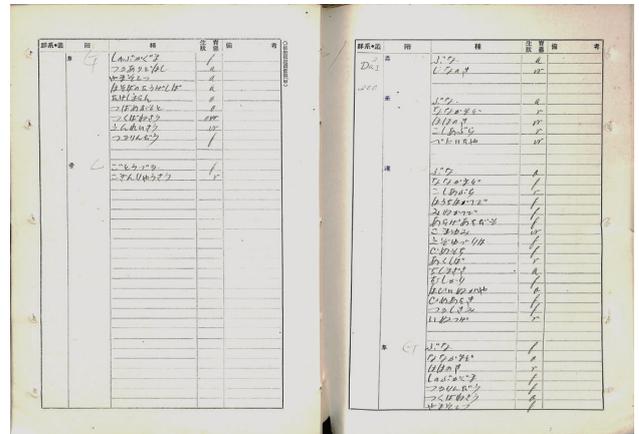
A handwritten data table titled '各樹種別直径本数測定表' (Table for Measuring Diameter and Number of Trees by Species). The table has columns for tree species (e.g., 杉, 松, 栗, 椎, etc.) and rows for individual measurement points. The data is recorded in a grid format, with some cells containing numbers and others containing slashes or other symbols. The table is filled with handwritten entries.

(b) 中身

Photo 4 青森営林局宮城県山岳地方の林況調査表



(a) 表紙



(b) 中身

Photo 5 青森営林局十和田国立公園地域の生態概況調査表



Photo 6-1 東京営林局阿武隈高原方面調査区のコドラート図

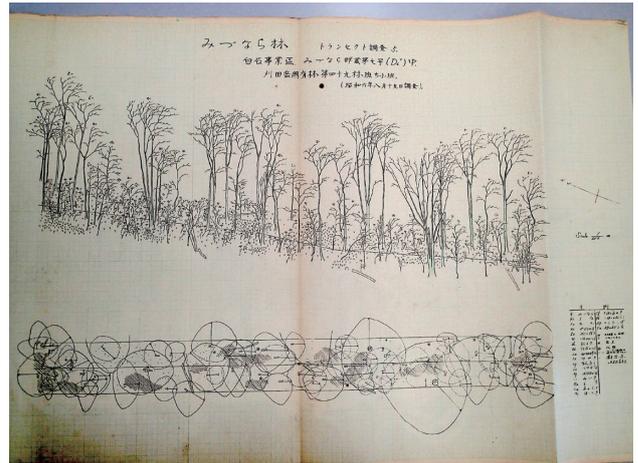
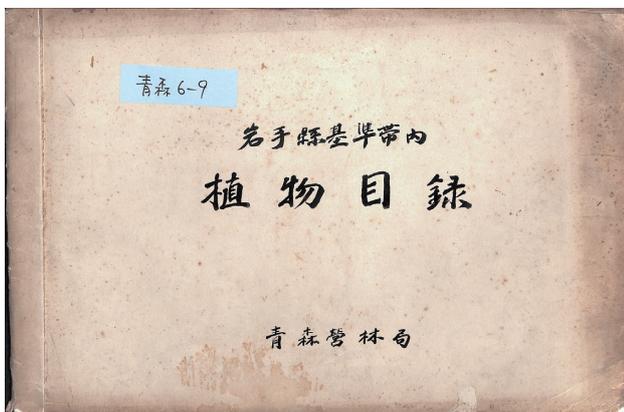
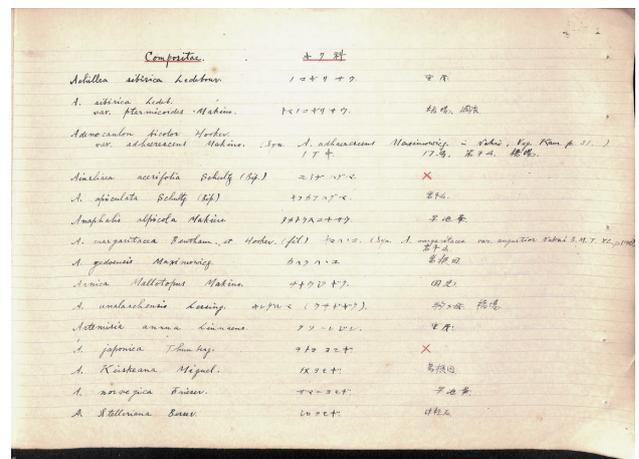


Photo 6-2 青森営林局白石事業区刈田岳国有林のトランセクト図



(a) 表紙



(b) 中身

Photo 7 青森営林局岩手県基準帯内の植物目録

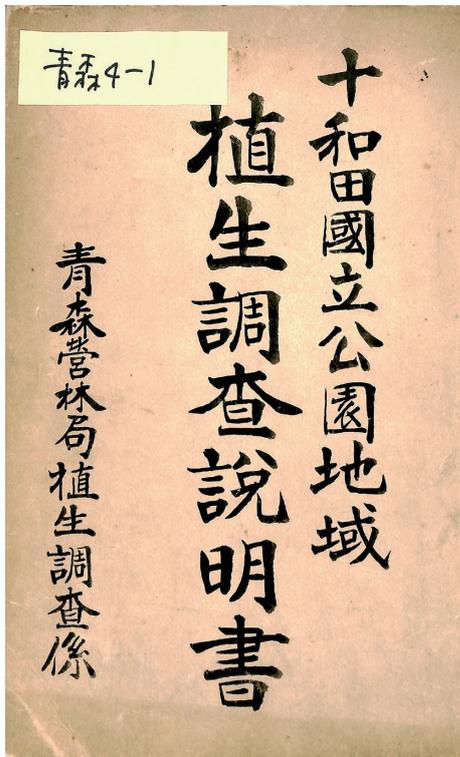
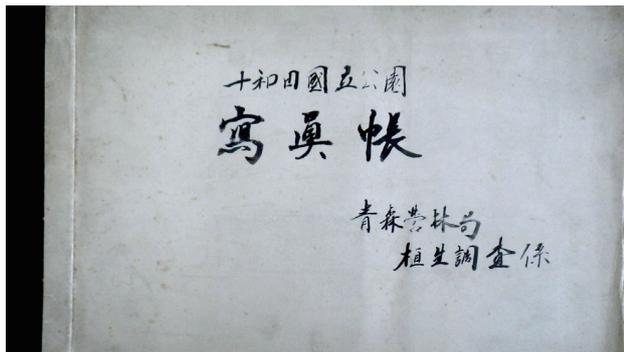


Photo 8 青森営林局十和田国立公園地域の植生調査説明書表紙



(a) 表紙



(b) 中身

Photo 9 青森営林局十和田国立公園地域の写真帳

Discovering original research reports from government-owned natural forests in the early Showa era

Kaoru NIIYAMA^{1)*}, Mitsue SHIBATA¹⁾, Hiroko KUROKAWA¹⁾, Tetsuya MATSUI²⁾,
Haruka OHASHI³⁾, and Tamotsu SATO¹⁾

Abstract

We found original copies of valuable forest ecological survey reports that were carried out in the early Showa era in Japan. The 662 survey reports discovered were the result of vegetation surveys conducted by technical officers in six regional forest offices (Aomori, Akita, Tokyo, Osaka, Kochi, and Kumamoto) and were based on the “Research Methods for Government-Owned Natural Forest,” issued by the Forestry Department, Ministry of Agriculture and Forestry in 1926. The reports contain abundant valuable original forest vegetation data, including tree size and vegetation maps. The purpose of this paper is to document the historical storage process of these reports, publish the report catalogue for forestry researchers, and digitize the original data to promote its use in future forestry research and management.

Key words : Forest vegetation, natural forests, early Showa era, ecological data, vegetation map

Received 10 December 2019, Accepted 19 May 2020

1) Department of Forest Vegetation, Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)

2) Center for International Partnerships and Research on Climate Change, FFPRI

3) Department of Wildlife Biology, FFPRI

* Department of Forest Vegetation, FFPRI, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki, 305-8687 JAPAN; e-mail: niiya@ffpri.affrc.go.jp.